別記様式第２号（その１の２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更	
フリガナ 設置者	コクリツダイガクホウジントウカイコクリツダイガクキコウ 国立大学法人東海国立大学機構	
フリガナ 大学の名称	ギフダイガクダイガクイン 岐阜大学大学院（The Graduate school of Gifu University）	
大学本部の位置	岐阜県岐阜市柳戸１番１	
大学の目的	独創的かつ先進的研究の拠点として，知の創造と統合に努めるとともに，高度な教育を通してそれを継承発展させ，豊かな人間性と学識を養い，判断力と実行力及び構想力に富む人材の育成を行い，もって地域社会と人類の発展に貢献することを目的とする。	
新設研究科等の目的	全国的に看護系博士課程へのニーズが高まる中、岐阜県内でも社会人を中心とした進学希望者が存在する一方、地域医療や看護学の発展に必要な博士人材の育成が求められている。 本学博士後期課程は、それらの進学機会を確保し、地域医療の質向上を図ることによって国立大学法人としての社会的責務を果たすとともに、看護学分野の研究推進、教育体制の強化、地域医療機関との連携深化、そして高度専門職の人材供給によって地域社会へ貢献するために設置するものである。	

新設研究科等の概要

新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	備考
	年	人	年次 人	人			年　月 第　年次		
医学系研究科 (Graduate School of Medicine)									14条特例の実施 【基礎となる学部等】 医学部看護学科 医学系研究科看護学専攻
看護学専攻 (Nursing)	3	3	－	9	博士（看護学） [Doctor of Philosophy in Nursing]	保健衛生学関係 （看護学関係）	令和9年4月 第1年次	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
計									

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	備考
（岐阜大学） ・医学部 医学科〔定員減〕　（△25）（令和9年4月）※ ・医学系研究科 看護学専攻修士課程　→　看護学専攻博士前期課程（課程の変更予定）（令和9年4月） （名古屋大学） ・医学部 医学科〔定員減〕　（△ 8）（令和9年4月）※	※臨時定員増の延長がない場合

教育課程

新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
看護学専攻	7科目	2科目	0科目	9科目	16単位

研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員（助手を除く）
		教授	准教授	講師	助教	計		
新設分	医学系研究科 看護学専攻（D）	人 5 (5)	人 7 (7)	人 0 (0)	人 0 (0)	人 12 (12)	人 0 (0)	人 11 (11)
	計	5 (5)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	－ (－)
既設	教育学研究科 教育実践開発専攻（P）	33 (33)	15 (15)	0 (0)	2 (2)	50 (50)	0 (0)	24 (24)
	教育学研究科 教育臨床心理学専攻（M）	3 (3)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	地域科学研究科 地域政策専攻（M）	7 (7)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	1 (1)
	地域科学研究科 地域文化専攻（M）	7 (7)	2 (2)	1 (1)	6 (6)	16 (16)	0 (0)	0 (0)
	医学系研究科 医科学専攻（D）	33 (33)	28 (28)	5 (5)	0 (0)	66 (66)	0 (0)	175 (175)
	医学系研究科 看護学専攻（M）	6 (6)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	1 (1)	13 (13)
	医学系研究科 医療者教育学専攻（M）	4 (4)	4 (4)	1 (1)	5 (5)	14 (14)	0 (0)	18 (18)
	工学研究科 工学専攻（D）	76 (76)	50 (50)	0 (0)	0 (0)	126 (126)	0 (0)	8 (8)
	工学研究科 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携統合機械工学専攻（D）	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	8 (8)
	工学研究科 岐阜大学・マレーシア国民大学 国際連携材料科学工学専攻（D）	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	8 (8)
	自然科学技術研究科 生命科学・化学専攻（M）	26 (26)	20 (20)	0 (0)	6 (6)	52 (52)	0 (0)	11 (11)
	自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻（M）	23 (23)	18 (18)	0 (0)	5 (5)	46 (46)	0 (0)	11 (11)
	自然科学技術研究科 環境社会基盤工学専攻（M）	13 (13)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	25 (25)	0 (0)	28 (28)
	自然科学技術研究科 物質・ものづくり工学専攻（M）	18 (18)	17 (17)	0 (0)	2 (2)	37 (37)	0 (0)	12 (12)
	自然科学技術研究科	25	15	0	2	42	0	40

	知能理工学専攻（M）	(25)	(15)	(0)	(2)	(42)	(0)	(40)	
	自然科学技術研究科 エネルギー工学専攻（M）	18 (18)	14 (14)	0 (0)	6 (6)	38 (38)	0 (0)	12 (12)	
	自然科学技術研究科 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻（M）	14 (14)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	11 (11)	
	共同獣医学研究科 共同獣医学専攻（D）	16 (16)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	19 (19)	
	連合農学研究科 生物生産科学専攻（D）	20 (20)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	32 (32)	0 (0)	0 (0)	
	連合農学研究科 生物環境科学専攻（D）	16 (16)	20 (20)	0 (0)	3 (3)	39 (39)	0 (0)	0 (0)	
	連合農学研究科 生物資源科学専攻（D）	30 (30)	26 (26)	0 (0)	7 (7)	63 (63)	0 (0)	0 (0)	
	連合農学研究科 岐阜大学・インド工科大学グワハティ校 国際連携食品科学技術専攻（D）	14 (14)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)	
	連合創薬医療情報研究科 創薬科学専攻（D）	7 (7)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	
	連合創薬医療情報研究科 医療情報学専攻（D）	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	4 (4)	
	社会システム経営学院	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	
分	計	443 (443)	311 (311)	8 (8)	54 (54)	816 (816)	1 (1)	－ (－)	
合計		448 (448)	318 (318)	8 (8)	54 (54)	828 (828)	1 (1)	－ (－)	

職種	専属	その他	計
事務職員	360人 (360)	375人 (375)	735人 (735)
技術職員	1,232 (1,232)	227 (227)	1,459 (1,459)
図書館職員	6 (6)	0 0	6 (6)
その他の職員	0 0	106 (106)	106 (106)
指導補助者	0 0	0 0	0 0
計	1,598 (1,598)	708 (708)	2,306 (2,306)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	368,279㎡	0㎡	0㎡	368,279㎡	
	その他	6,197,198㎡	11,712㎡	0㎡	6,208,910㎡	
	合計	6,565,477㎡	11,712㎡	0㎡	6,577,189㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	198,102㎡ (198,102㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	198,102㎡ (198,102㎡)	別途附属病院 74,347㎡

講義室等・新設研究科等の専任教員研究室	講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の専任教員研究室	
	5室	24室	15室	15室	

図書・設備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
		936,139〔324,604〕 936,139〔324,604〕	24,302〔23,101〕 (24,302〔23,101〕)	24,789〔11,865〕 (24,789〔11,865〕)	7,763〔6,180〕 (7,763〔6,180〕)	12,448 (12,448)	2,217 (2,217)	学部等単位での特定不明なため、大学全体の数
	計	936,139〔324,604〕 (936,139〔324,604〕)	24,302〔23,101〕 (24,302〔23,101〕)	24,789〔11,865〕 (24,789〔11,865〕)	7,763〔6,180〕 (7,763〔6,180〕)	12,448 (12,448)	2,217 (2,217)	

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	
	経費の見積り 教員１人当り研究費等		—	—	—	—	—	
	経費の見積り 共同研究費等		—	—	—	—	—	
	経費の見積り 図書購入費	—	—	—	—	—	—	国費による
	経費の見積り 設備購入費	—	—	—	—	—	—	
	学生１人当り納付金		第１年次 — 千円	第２年次 — 千円	第３年次 — 千円	第４年次 — 千円	第５年次 — 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		該当なし					

大学等の名称：岐阜大学（Gifu University）

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
教育学部						1.08 ≪1.06≫			
学校教育教員養成課程	4	220	－	880	学士（教育学）	1.08 ≪1.06≫	平成10年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	
地域科学部						1.06 ≪1.05≫			
地域政策学科	4	50	3年次 5	210	学士（地域科学）	1.19 ≪1.18≫	平成18年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	
地域文化学科	4	50	3年次 5	210	学士（地域科学）	0.93 ≪0.91≫	平成18年度	同上	
医学部						0.99 ≪0.98≫			
医学科	6	110	－	660	学士（医学）	0.98 ≪0.97≫	昭和39年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	
看護学科	4	80	－	320	学士（看護学）	1.01 ≪1.00≫	平成12年度	同上	
工学部						1.05 ≪1.01≫			【】は社会システム経営学環（学部等連係課程実施基本組織等）への拠出数（内数）
社会基盤工学科	4	68 【8】	3年次 10	292 【32】	学士（工学）	1.03 ≪1.01≫	平成14年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	
機械工学科	4	134 【4】	3年次 10	556 【16】	学士（工学）	1.09 ≪1.05≫	平成25年度	同上	
化学・生命工学科	4	154 【4】	3年次 2	620 【16】	学士（工学）	1.02 ≪0.99≫	平成25年度	同上	
電気電子・情報工学科	4	194 【4】	3年次 8	732 【16】	学士（工学）	1.07 ≪1.00≫	平成25年度	同上	令和7年度入学定員増（20人）
応用生物科学部						1.04 ≪1.03≫			【】は社会システム経営学環（学部等連係課程実施基本組織等）への拠出数（内数）
応用生命科学課程	4	－	－	－	学士（応用生物科学）	－	平成23年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	令和7年度より学生募集停止
生産環境科学課程	4	－	－	－	学士（応用生物科学）	－	平成16年度	同上	令和7年度より学生募集停止
応用生命化学科	4	58	3年次 3	58	学士（応用生物科学）	1.03 ≪1.03≫	令和7年度	同上	

			【3】		【3】					
	食農生命科学科	4	59	3年次 4	59	学士（応用生物科学）	1.05 ≪1.05≫	令和7年度	同上	
			【4】		【4】					
	生物圏環境学科	4	53	3年次 3	53	学士（応用生物科学）	1.01 ≪1.01≫	令和7年度	同上	
			【3】		【3】					
	共同獣医学科	6	30	－	180	学士（獣医学）	1.04 ≪1.04≫	平成25年度	同上	
	社会システム経営学環	4	【30】	－	【120】	学士（経営学）	1.01 ≪1.00≫	令和3年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	学部等連係課程実施基本組織等のため、工学部、応用生物応用科学部の定員を活用
	教育学研究科									
							1.10 ≪1.07≫			
	教職実践開発専攻									
	（専門職学位課程）	2	40	－	80	教職修士（専門職）	1.08 ≪1.07≫	令和4年度	同上	
	教育臨床心理学専攻									
	（修士課程）	2	5	－	10	修士（教育学）	1.20 ≪1.10≫	令和4年度	同上	
	地域科学研究科						0.63 ≪0.56≫			【】は社会システム経営学院（研究科等連係課程実施基本組織等）への拠出数（内数）
	地域政策専攻									
	（修士課程）	2	13	－	25	修士（地域科学）	0.16 ≪0.04≫	平成13年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	令和7年度入学定員増（1人）
			【1】		【1】					
	地域文化専攻									
	（修士課程）	2	8	－	16	修士（地域科学）	1.37 ≪1.37≫	平成13年度	同上	
	医学系研究科						1.28 ≪1.11≫			
	医科学専攻									
	（博士課程）	4	47	－	188	博士（医学）	1.30 ≪1.13≫	平成14年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	
	看護学専攻									
	（修士課程）	2	8	－	16	修士（看護学）	1.25 ≪0.93≫	平成17年度	同上	
	医療者教育学専攻									
	（修士課程）	2	6	－	12	修士（医療者教育学）	1.00 ≪1.00≫	令和2年度	同上	
	工学研究科						1.40 ≪1.08≫			
	生産開発システム工学専攻									平成31年度より学生募集停止
	（博士課程）	3	－	－	－	博士（工学）	－	平成3年度	同上	
	工学専攻									
	（博士課程）	3	23	－	69	博士（工学）	1.40 ≪1.11≫	平成31年度	同上	
	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携統合機械工学専攻									
	（博士課程）	3	2	－	6	博士（学術）	1.16 ≪0.66≫	平成31年度	同上	
	岐阜大学・マレーシア国民大学国際連携材料科学工学専攻									
	（博士課程）	3	2	－	6	博士（学術）	1.66 ≪1.16≫	平成31年度	同上	
	自然科学技術研究科						1.32 ≪1.30≫			【】は社会システム経営学院（研究科等連係課程実施基本組織等）への拠出数（内数）
	生命科学・化学専攻									

既設大学等の状況

	（修士課程）	2	74	－	148	修士（工学または応用生物科学）	1.41 ≪1.39≫	平成29年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	
	生物生産環境科学専攻									令和7年度入学定員増（2人）
	（修士課程）	2	44 【2】	－	86 【2】	修士（応用生物科学）	1.34 ≪1.33≫	平成29年度	同上	
	環境社会基盤工学専攻									令和7年度入学定員増（3人）
	（修士課程）	2	32 【3】	－	61 【3】	修士（工学）	1.40 ≪1.39≫	平成29年度	同上	
	物質・ものづくり工学専攻									
	（修士課程）	2	67	－	134	修士（工学）	1.54 ≪1.52≫	平成29年度	同上	
	知能理工学専攻									令和7年度入学定員増（10人）
	（修士課程）	2	91	－	172	修士（工学）	1.23 ≪1.20≫	平成29年度	同上	
	エネルギー工学専攻									
	（修士課程）	2	72	－	144	修士（工学）	1.15 ≪1.13≫	平成29年度	同上	
	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻									
	（修士課程）	2	10	－	20	修士（食品科学技術）	0.75 ≪0.75≫	平成31年度	同上	
	共同獣医学研究科						1.41 ≪1.25≫			
	共同獣医学専攻									
	（博士課程）	4	6	－	24	博士（獣医学）	1.41 ≪1.25≫	平成31年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	
	連合農学研究科						1.96 ≪1.66≫			
	生物生産科学専攻									
	（博士課程）	3	7	－	21	博士（農学）	1.61 ≪1.28≫	平成3年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	
	生物環境科学専攻									
	（博士課程）	3	5	－	15	博士（農学）	1.93 ≪1.66≫	平成3年度	同上	
	生物資源科学専攻									
	（博士課程）	3	6	－	18	博士（農学）	2.77 ≪2.50≫	平成3年度	同上	
	岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻									
	（博士課程）	3	2	－	6	博士（学術）	0.83 ≪0.50≫	平成31年度	同上	
	連合獣医学研究科									
	獣医学専攻									平成31年度より学生募集停止
	（博士課程）	4	－	－	－	博士（獣医学）	－	平成2年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	
	連合創薬医療情報研究科						1.44 ≪1.33≫			
	創薬科学専攻									
	（博士課程）	3	3	－	9	博士（工学または薬科学）	1.77 ≪1.66≫	平成19年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	
	医療情報学専攻									
	（博士課程）	3	3	－	9	博士（医科学または薬科学）	1.11 ≪1.00≫	平成19年度	同上	
	社会システム経営学院	2	【6】	－	【6】	修士（経営学）	1.00 ≪1.00≫	令和7年度	岐阜県岐阜市柳戸１番１	研究科等連係課程実施組織のため、地域科学研究科、自然科学技術研究科の定員を活用
	大学等の名称	名古屋大学（Nagoya University）								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	

	年	人	年次人	人		倍			
文学部	4	125	3年次10	520	学士（文学）	1.10≪1.05≫	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
人文学科	4	125	3年次10	520	学士（文学）	1.10≪1.05≫	平成8年度	同上	
教育学部	4	65	3年次10	280	学士（教育学）	1.11≪1.08≫	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
人間発達科学科	4	65	3年次10	280	学士（教育学）	1.11≪1.08≫	平成9年度	同上	
法学部	4	150	3年次10	620	学士（法学）	1.08≪1.05≫	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
法律・政治学科	4	150	3年次10	620	学士（法学）	1.08≪1.05≫	平成9年度	同上	
経済学部	4	205	3年次10	840	学士（経済学）	1.10≪1.04≫	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
経済学科	4	140	－	560	学士（経済学）	1.11≪1.05≫	昭和24年度	同上	
経営学科	4	65	－	260	学士（経済学）	1.07≪1.03≫	昭和24年度	同上	
情報学部	4	149	3年次12	554	学士（情報学）	1.10≪1.06≫	平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	令和7年度入学定員増（14人）
自然情報学科	4	44	3年次4	158	学士（情報学）	1.10≪1.07≫	平成29年度	同上	令和7年度入学定員増（6人）
人間・社会情報学科	4	38	3年次4	152	学士（情報学）	1.06≪1.03≫	平成29年度	同上	
コンピュータ科学科	4	67	3年次4	244	学士（情報学）	1.13≪1.07≫	平成29年度	同上	令和7年度入学定員増（8人）
理学部	4	270	－	1,080	学士（理学）	1.10≪1.06≫	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
数理学科	4	55	－	220	学士（理学）	1.06≪1.01≫	平成7年度	同上	
物理学科	4	90	－	360	学士（理学）	1.03≪1.05≫	昭和24年度	同上	
化学科	4	50	－	200	学士（理学）	1.16≪1.13≫	昭和24年度	同上	
生命理学科	4	50	－	200	学士（理学）	1.14≪1.08≫	平成8年度	同上	
地球惑星科学科	4	25	－	100	学士（理学）	1.10≪1.07≫	平成4年度	同上	
医学部	4・6	308	2年次4	1,459	学士（医学） 学士（看護学） 学士（保健学） 学士（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学）	1.05≪1.03≫	昭和24年度	－	
医学科	6	108	2年次4	659	学士（医学）	1.05≪1.03≫	昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65	令和4年度編入学定員変更（3年次5名→2年次4名）
保健学科	4	200	－	800	学士（看護学） 学士（保健学） 学士（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学）	1.04≪1.02≫	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
工学部	4	680	－	2,740	学士（工学）	1.07≪1.02≫	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	令和7年度入学定員増（20人）
環境土木・建築学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成8年度	同上	平成29年度より学生募集停止
化学生命工学科	4	99	－	396	学士（工学）	1.05≪1.02≫	平成29年度	同上	
物理工学科	4	83	－	332	学士（工学）	1.09≪1.04≫	平成29年度	同上	
マテリアル工学科	4	110	－	440	学士（工学）	1.07≪1.01≫	平成29年度	同上	
電気電子情報工学科	4	128	－	482	学士（工学）	1.07≪1.03≫	平成29年度	同上	令和7年度入学定員増（10人）
機械・航空宇宙工学科	4	160	－	610	学士（工学）	1.06≪1.03≫	平成29年度	同上	令和7年度入学定員増（10人）
エネルギー理工学科	4	40	－	160	学士（工学）	1.07≪1.03≫	平成29年度	同上	
環境土木・建築学科	4	80	－	320	学士（工学）	1.05≪1.01≫	平成29年度	同上	
農学部	4	170	－	680	学士（農学）	1.08≪1.06≫	昭和26年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	
生物環境科学科	4	35	－	140	学士（農学）	1.09≪1.05≫	平成18年度	同上	
資源生物科学科	4	55	－	220	学士（農学）	1.07≪1.04≫	平成18年度	同上	
応用生命科学科	4	80	－	320	学士（農学）	1.10≪1.07≫	平成18年度	同上	

人文学研究科								平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町１	
人文学専攻								平成29年度	同上	
（博士前期課程）	2	104	－	208	修士（文学）	0.97				
					修士（歴史学）					
					修士（学術）					
（博士後期課程）	3	61	－	183	博士（文学）	1.16				
					博士（歴史学）					
					博士（学術）					
教育発達科学研究科								昭和28年度（平成12年度名称変更）	愛知県名古屋市千種区不老町１	
教育科学専攻								平成12年度	同上	
（博士前期課程）	2	32	－	64	修士（教育学）	1.29				
					修士（教育）					
（博士後期課程）	3	16	－	48	博士（教育学）	2.14				
					博士（教育）					
心理発達科学専攻								平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町１	
（博士前期課程）	2	22	－	44	修士（心理学）	0.86				
					修士（臨床心理学）					
（博士後期課程）	3	15	－	45	博士（心理学）	1.62				
法学研究科								昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町１	
総合法政専攻								平成16年度	同上	
（博士前期課程）	2	35	－	70	修士（法学）	1.05				
					修士（比較法学）					
					修士（現代法学）					
（博士後期課程）	3	17	－	51	博士（法学）	1.19				
					博士（比較法学）					
					博士（現代法学）					
実務法曹養成専攻					法務博士			平成16年度	同上	
（専門職学位課程）	3	50	－	150	（専門職）	0.94				
経済学研究科								昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町１	
社会経済システム専攻								平成12年度	同上	
（博士前期課程）	2	30	－	60	修士（経済学）	1.23				
（博士後期課程）	3	15	－	45	博士（経済学）	0.91				
産業経営システム専攻								平成12年度	同上	
（博士前期課程）	2	14	－	28	修士（経済学）	0.96				
（博士後期課程）	3	7	－	21	博士（経済学）	0.47				
情報学研究科								平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町１	令和7年度入学定員増（20人）
数理情報学専攻								平成29年度	同上	
（博士前期課程）	2	14	－	28	修士（情報学）	1.39				
					修士（学術）					
（博士後期課程）	3	4	－	12	博士（情報学）	1.50				
					博士（学術）					
複雑系科学専攻								平成29年度	同上	
（博士前期課程）	2	44	－	80	修士（情報学）	1.35				令和7年度入学定員増（8人）
					修士（学術）					
（博士後期課程）	3	8	－	24	博士（情報学）	1.08				

						博士（学術）					
	社会情報学専攻							平成29年度	同上		
	（博士前期課程）	2	18	—	36	修士（情報学）	0.97				
						修士（学術）					
	（博士後期課程）	3	5	—	15	博士（情報学）	1.13				
						博士（学術）					
	心理・認知科学専攻							平成29年度	同上		
	（博士前期課程）	2	15	—	30	修士（情報学）	0.86				
						修士（学術）					
	（博士後期課程）	3	7	—	21	博士（情報学）	1.00				
						博士（学術）					
	情報システム学専攻							平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町１		
	（博士前期課程）	2	33	—	65	修士（情報学）	1.16				令和7年度入学定員増（1人）
						修士（学術）					
	（博士後期課程）	3	9	—	27	博士（情報学）	0.62				
						博士（学術）					
	知能システム学専攻							平成29年度	同上		
	（博士前期課程）	2	40	—	69	修士（情報学）	1.31				令和7年度入学定員増（11人）
						修士（学術）					
	（博士後期課程）	3	10	—	30	博士（情報学）	2.96				
						博士（学術）					
	理学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町１		
	素粒子宇宙物理学専攻							平成7年度	同上		令和4年度より学生募集停止
	（博士前期課程）	2	—	—	—	修士（理学）	—				
	（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（理学）	—				
	生命理学専攻							平成8年度	同上		令和4年度より学生募集停止
	（博士前期課程）	2	—	—	—	修士（理学）	—				
	（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（理学）	—				
	理学専攻							令和4年度	同上		令和4年度新設
	（博士前期課程）	2	188	—	376	修士（理学）	1.06				
	（博士後期課程）	3	70	—	140	博士（理学）	1.03				
	名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻							平成28年度	同上		
	（博士後期課程）	3	2	—	6	博士（理学）	0.00				
	医学系研究科							昭和30年度（平成14年度名称変更）	—		
	総合医学専攻							平成25年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65		
	（博士課程）	4	151	—	604	博士（医学）	1.11				
	名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻							平成27年度	同上		
	（博士課程）	4	4	—	16	博士（医学）	0.31				
	名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻							平成29年度	同上		
	（博士課程）	4	4	—	16	博士（医学）	0.12				
	名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻							平成30年度	同上		
	（博士課程）	4	2	—	8	博士（医学）	0.00				
	医科学専攻							平成13年度	同上		
	（修士課程）	2	20	—	40	修士（医科学）	0.97				
	医療行政コース	1	10	—	10	修士（医療行政学）	0.70				
	総合保健学専攻							令和2年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20		

	（博士前期課程）	2	70	―	140	修士（看護学） 修士（医療技術学） 修士（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ療法学）	0.85			
	（博士後期課程）	3	20	―	60	博士（看護学） 博士（医療技術学） 修士（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ療法学）	0.85			
	看護学専攻							平成14年度	同上	令和2年度より学生募集停止
	（博士前期課程）	2	―	―	―	修士（看護学）	―			
	（博士後期課程）	3	―	―	―	博士（看護学）	―			
	リハビリテーション療法学専攻		―	―	―		―	平成14年度	同上	令和2年度より学生募集停止
	（博士前期課程）	2	―	―	―	修士（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ療法学）	―			
	（博士後期課程）	3	―	―	―	博士（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ療法学）	―			
	工学研究科							昭和28年度	愛知県名古屋市千種区不老町１	
	有機・高分子化学専攻							平成29年度	同上	
	（博士前期課程）	2	34	―	68	修士（工学）	0.92			
	（博士後期課程）	3	8	―	24	博士（工学）	0.66			
	応用物質化学専攻							平成29年度	同上	
	（博士前期課程）	2	34	―	68	修士（工学）	1.10			
	（博士後期課程）	3	8	―	24	博士（工学）	0.91			
	生命分子工学専攻							平成29年度	同上	
	（博士前期課程）	2	28	―	56	修士（工学）	1.07			
	（博士後期課程）	3	6	―	18	博士（工学）	0.77			
	応用物理学専攻							平成29年度	同上	
	（博士前期課程）	2	39	―	78	修士（工学）	1.08			
	（博士後期課程）	3	9	―	27	博士（工学）	0.70			
	物質科学専攻							平成29年度	同上	
	（博士前期課程）	2	39	―	78	修士（工学）	0.93			
	（博士後期課程）	3	9	―	27	博士（工学）	0.55			
	材料デザイン工学専攻							平成29年度	同上	
	（博士前期課程）	2	34	―	68	修士（工学）	1.05			
	（博士後期課程）	3	6	―	18	博士（工学）	0.72			
	物質プロセス工学専攻							平成29年度	同上	
	（博士前期課程）	2	35	―	70	修士（工学）	1.17			
	（博士後期課程）	3	8	―	24	博士（工学）	2.12			
	化学システム工学専攻							平成29年度	同上	
	（博士前期課程）	2	34	―	68	修士（工学）	1.01			
	（博士後期課程）	3	6	―	18	博士（工学）	1.77			
	電気工学専攻							平成29年度	同上	
	（博士前期課程）	2	34	―	68	修士（工学）	1.22			
	（博士後期課程）	3	9	―	27	博士（工学）	0.74			
	電子工学専攻							平成29年度	同上	
	（博士前期課程）	2	47	―	94	修士（工学）	1.18			
	（博士後期課程）	3	13	―	39	博士（工学）	0.82			
	情報・通信工学専攻							平成29年度	同上	
	（博士前期課程）	2	33	―	66	修士（工学）	1.16			
	（博士後期課程）	3	8	―	24	博士（工学）	0.88			
	機械システム工学専攻							平成29年度	同上	

	（博士前期課程）	2	66	—	132	修士（工学）	1.25				
	（博士後期課程）	3	14	—	42	博士（工学）	0.88				
	マイクロ・ナノ機械理工学専攻							平成29年度	同上		
	（博士前期課程）	2	36	—	72	修士（工学）	1.19				
	（博士後期課程）	3	8	—	24	博士（工学）	1.08				
	航空宇宙工学専攻							平成29年度	同上		
	（博士前期課程）	2	38	—	76	修士（工学）	1.38				
	（博士後期課程）	3	8	—	24	博士（工学）	1.37				
	エネルギー理工学専攻							平成29年度	同上		
	（博士前期課程）	2	18	—	36	修士（工学）	1.11				
	（博士後期課程）	3	5	—	15	博士（工学）	0.40				
	総合エネルギー工学専攻							平成29年度	同上		
	（博士前期課程）	2	18	—	36	修士（工学）	1.91				
	（博士後期課程）	3	4	—	12	博士（工学）	0.50				
	土木工学専攻							平成29年度	同上		
	（博士前期課程）	2	36	—	72	修士（工学）	1.06				
	（博士後期課程）	3	9	—	27	博士（工学）	1.37				
	名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻							令和4年度	同上	令和4年度新設	
	（博士後期課程）	3	5	—	10	博士（工学）	0.66				
	生命農学研究科							昭和30年度（平成9年度名称変更）	愛知県名古屋市千種区不老町１		
	森林・環境資源科学専攻							平成30年度	同上		
	（博士前期課程）	2	27	—	54	修士（農学）	1.27				
	（博士後期課程）	3	6	—	18	博士（農学）	1.83				
	植物生産科学専攻							平成30年度	同上		
	（博士前期課程）	2	30	—	60	修士（農学）	1.35				
	（博士後期課程）	3	9	—	27	博士（農学）	1.29				
	動物科学専攻							平成30年度	同上		
	（博士前期課程）	2	28	—	56	修士（農学）	1.12				
	（博士後期課程）	3	7	—	21	博士（農学）	1.04				
	応用生命科学専攻							平成30年度	同上		
	（博士前期課程）	2	66	—	132	修士（農学）	1.12				
	（博士後期課程）	3	16	—	48	博士（農学）	0.77				
	名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻							平成30年度	同上		
	（博士後期課程）	3	2	—	6	博士（農学）	0.50				
	名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻							平成31年度	同上		
	（博士後期課程）	3	2	—	6	博士（農学）	0.33				
	国際開発研究科							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町１		
	国際開発専攻							平成3年度	同上	平成30年度より学生募集停止	
	（博士前期課程）	2	—	—	—	修士（国際開発学） 修士（学術）	—				
	（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（国際開発学） 博士（学術）	—				
	国際開発協力専攻							平成30年度	同上		
	（博士前期課程）	2	44	—	88	修士（国際開発学） 修士（学術）	1.06				
	（博士後期課程）	3	22	—	66	博士（国際開発学）	1.37				

						博士（学術）				
	多元数理科学研究科							平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町１	
	多元数理科学専攻							平成7年度	同上	
	（博士前期課程）	2	47	－	94	修士（数理学）	1.11			
	（博士後期課程）	3	30	－	90	博士（数理学）	0.80			
	環境学研究科							平成13年度	愛知県名古屋市千種区不老町１	
	地球環境科学専攻							平成13年度	同上	
	（博士前期課程）	2	53	－	106	修士（環境学）	0.99			
						修士（理学）				
	（博士後期課程）	3	24	－	72	博士（環境学）	1.05			
						博士（理学）				
	都市環境学専攻							平成13年度	同上	
	（博士前期課程）	2	47	－	94	修士（環境学）	1.39			
						修士（工学）				
						修士（建築学）				
	（博士後期課程）	3	21	－	63	博士（環境学）	0.74			
						博士（工学）				
						博士（建築学）				
	社会環境学専攻							平成13年度	同上	
	（博士前期課程）	2	27	－	54	修士（環境学）	0.90			
						修士（社会学）				
						修士（地理学）				
						修士（法学）				
						修士（経済学）				
	（博士後期課程）	3	13	－	39	博士（環境学）	1.30			
						博士（社会学）				
						博士（地理学）				
						博士（法学）				
						博士（経済学）				
	創薬科学研究科							平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町１	
	基盤創薬学専攻								同上	
	（博士前期課程）	2	32	－	64	修士（創薬科学）	1.14	平成24年度		
	（博士後期課程）	3	10	－	30	博士（創薬科学）	1.03	平成26年度		

附属施設の概要	名　　称 ： 教育学部附属小中学校 目　　的 ： 小学校教育，中学校教育，研究及び教員養成 所 在 地 ： 岐阜県岐阜市加納大手町74番地 設 置 年 月 ： 令和2年4月 規模等（延面積） ： 13,531㎡ 名　　称 ： 医学部附属病院 目　　的 ： 診療，医学の教育及び研究 所 在 地 ： 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 ： 昭和42年6月 規模等（延面積） ： 74,874㎡ 名　　称 ： 応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター 美濃加茂農場 目　　的 ： 農学，獣医学の教育及び研究 所 在 地 ： 岐阜県美濃加茂市牧野1918-1 設 置 年 月 ： 平成16年4月 規模等（延面積） ： 建物　　1,690㎡ 土地　　95,831㎡ 名　　称 ： 応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター 位山演習林 目　　的 ： 農学の教育及び研究 所 在 地 ： 岐阜県下呂市萩原町山之口 設 置 年 月 ： 平成16年4月 規模等（延面積） ： 建物　　1,103㎡ 土地　6,424,445㎡ 名　　称 ： 応用生物科学部附属動物病院 目　　的 ： 診療，獣医学の教育及び研究 所 在 地 ： 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 ： 平成16年4月 規模等（延面積） ： 3,681㎡ 名　　称 ： 教育推進・学生支援機構 目　　的 ： 教育推進，学生支援 所 在 地 ： 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 ： 平成25年12月 規模等（延面積） ： 7,144㎡ 名　　称 ： グローカル推進機構 目　　的 ： 国際協働教育推進，地域国際化推進，留学推進，国際企画 所 在 地 ： 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 ： 平成31年4月 規模等（延面積） ： 1,045㎡ 名　　称 ： 学術研究・産学官連携推進本部 目　　的 ： 研究推進，教育研究活動支援，産学連携・地域連携推進 所 在 地 ： 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 ： 令和2年4月 規模等（延面積） ： 11,062㎡ 名　　称 ： 高等研究院 目　　的 ： 研究支援 所 在 地 ： 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 ： 令和2年4月 規模等（延面積） ： 11,062㎡ 名　　称 ： 地域連携推進本部 目　　的 ： 地域協働 所 在 地 ： 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 ： 令和7年4月 規模等（延面積） ： 336㎡ 名　　称 ： 環境社会共生体研究センター 目　　的 ： 環境問題、気候変動的応等への研究支援 所 在 地 ： 岐阜県岐阜市柳戸1番1 （高山試験地　岐阜県高山市岩井町919の47） 設 置 年 月 ： 令和6年4月 規模等（延面積） ： 1,890㎡ 名　　称 ： 保健管理センター 目　　的 ： 学生及び教職員の健康管理 所 在 地 ： 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 ： 昭和49年4月 規模等（延面積） ： 525㎡ 名　　称 ： 医学教育開発研究センター 目　　的 ： 医学教育に関する研修，調査分析等 所 在 地 ： 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 ： 平成13年4月 規模等（延面積） ： 535㎡ 名　　称 ： 糖鎖生命コア研究所 目　　的 ： 糖鎖に係る先端研究 所 在 地 ： 岐阜県岐阜市柳戸1番1 設 置 年 月 ： 令和3年1月 規模等（延面積） ： 4,296㎡	

国立大学法人東海国立大学機構　設置申請に関わる組織の移行表（岐阜大学）

令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和9年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
岐阜大学				岐阜大学				
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	220	－	880	学校教育教員養成課程	220	－	880	
地域科学部		3年次		地域科学部		3年次		
地域政策学科	50	5	210	地域政策学科	50	5	210	
地域文化学科	50	5	210	地域文化学科	50	5	210	
医学部		3年次		医学部		3年次		
医学科（６年制）	110	－	660	医学科（６年制）	85	－	510	臨時定員増の延長がない場合定員変更（△25）
看護学科	80	－	320	看護学科	80	－	320	
工学部		3年次		工学部		3年次		工学部
社会基盤工学科	68	10	292	社会基盤工学科	68	10	292	【8】※1
機械工学科	134	10	556	機械工学科	134	10	556	【4】※1
化学・生命工学科	154	2	620	化学・生命工学科	154	2	620	【4】※1
電気電子・情報工学科	194	8	792	電気電子・情報工学科	194	8	792	【4】※1
応用生物科学部		3年次		応用生物科学部		3年次		
応用生命化学科	58	3	238	応用生命化学科	58	3	238	【3】※1
食農生命科学科	59	4	244	食農生命科学科	59	4	244	【4】※1
生物圏環境学科	53	3	218	生物圏環境学科	53	3	218	【3】※1
共同獣医学科（６年制）	30	－	180	共同獣医学科（６年制）	30	－	180	
社会システム経営学環	【30】	-	【120】	社会システム経営学環	【30】	-	【120】	
計	1,260	3年次 50	5,420	計	1,235	3年次 50	5,270	
岐阜大学大学院				岐阜大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
教職実践開発専攻（P）	40	－	80	教職実践開発専攻（P）	40	－	80	
教育臨床心理学専攻（M）	5	－	10	教育臨床心理学専攻（M）	5	－	10	
地域科学研究科				地域科学研究科				
地域政策専攻（M）	13	－	26	地域政策専攻（M）	13	－	26	【1】※2
地域文化専攻（M）	8	－	16	地域文化専攻（M）	8	－	16	
医学系研究科				医学系研究科				
医科学専攻（４年制D）	47	－	188	医科学専攻（４年制D）	47	－	188	
看護学専攻（M）	8	－	16	看護学専攻（M）	8	－	16	
				看護学専攻（D）	3	－	9	
医療者教育学専攻（M）	6	－	12	医療者教育学専攻（M）	6	－	12	
工学研究科				工学研究科				
工学専攻（D）	23	－	69	工学専攻（D）	23	－	69	
岐阜大学･インド工科大学グワハティ校				岐阜大学･インド工科大学グワハティ校				
国際連携統合機械工学専攻（D）	2	－	6	国際連携統合機械工学専攻（D）	2	－	6	
岐阜大学･マレーシア国民大学				岐阜大学･マレーシア国民大学				
国際連携材料科学工学専攻（D）	2	－	6	国際連携材料科学工学専攻（D）	2	－	6	
自然科学技術研究科				自然科学技術研究科				
生命科学・化学専攻（M）	74	－	148	生命科学・化学専攻（M）	74	－	148	
生物生産環境科学専攻（M）	44	－	88	生物生産環境科学専攻（M）	44	－	88	【2】※2
環境社会基盤工学専攻（M）	32	－	64	環境社会基盤工学専攻（M）	32	－	64	【3】※2
物質・ものづくり工学専攻（M）	67	－	134	物質・ものづくり工学専攻（M）	67	－	134	
知能理工学専攻（M）	91	－	182	知能理工学専攻（M）	91	－	182	
エネルギー工学専攻（M）	72	－	144	エネルギー工学専攻（M）	72	－	144	
岐阜大学･インド工科大学グワハティ校				岐阜大学･インド工科大学グワハティ校				
国際連携食品科学技術専攻（M）	10	－	20	国際連携食品科学技術専攻（M）	10	－	20	
共同獣医学研究科				共同獣医学研究科				
共同獣医学専攻（４年制D）	6	－	24	共同獣医学専攻（４年制D）	6	－	24	
連合農学研究科				連合農学研究科				
生物生産科学専攻（D）	7	－	21	生物生産科学専攻（D）	7	－	21	
生物環境科学専攻（D）	5	－	15	生物環境科学専攻（D）	5	－	15	
生物資源科学専攻（D）	6	－	18	生物資源科学専攻（D）	6	－	18	
岐阜大学･インド工科大学グワハティ校				岐阜大学･インド工科大学グワハティ校				
国際連携食品科学技術専攻（D）	2	－	6	国際連携食品科学技術専攻（D）	2	－	6	
連合創薬医療情報研究科				連合創薬医療情報研究科				
創薬科学専攻（D）	3	－	9	創薬科学専攻（D）	3	－	9	
医療情報学専攻（D）	3	－	9	医療情報学専攻（D）	3	－	9	
社会システム経営学院（M）	【6】	－	【12】	社会システム経営学院（M）	【6】	－	【12】	
計	576	－	1,311	計	579	－	1,320	

※1　【　】内は社会システム経営学環に関する連係協力学部定員内訳
※2　【　】内は社会システム経営学院に関する連係協力研究科定員内訳

国立大学法人東海国立大学機構　設置申請に関わる組織の移行表（名古屋大学）

令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和9年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
名古屋大学				名古屋大学				
文学部		3年次		文学部		3年次		
人文学科	125	10	520	人文学科	125	10	520	
教育学部		3年次		教育学部		3年次		
人間発達科学科	65	10	280	人間発達科学科	65	10	280	
法学部		3年次		法学部		3年次		
法律・政治学科	150	10	620	法律・政治学科	150	10	620	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済学科	140	—	560	経済学科	140	—	560	
経営学科	65	—	260	経営学科	65	—	260	
学部共通	—	10	20	学部共通	—	10	20	
情報学部		3年次		情報学部		3年次		
自然情報学科	44	4	184	自然情報学科	44	4	184	
人間・社会情報学科	38	4	160	人間・社会情報学科	38	4	160	
コンピュータ科学科	67	4	276	コンピュータ科学科	67	4	276	
理学部				理学部				
数理学科	55	—	220	数理学科	55	—	220	
物理学科	90	—	360	物理学科	90	—	360	
化学科	50	—	200	化学科	50	—	200	
生命理学科	50	—	200	生命理学科	50	—	200	
地球惑星科学科	25	—	100	地球惑星科学科	25	—	100	
医学部		2年次		医学部		2年次		
医学科（6年制）	108	4	668	医学科（6年制）	100	4	620	臨時定員増の延長がない場合定員変更（△8）
保健学科	200	—	800	保健学科	200	—	800	
工学部				工学部				
化学生命工学科	99	—	396	化学生命工学科	99	—	396	
物理工学科	83	—	332	物理工学科	83	—	332	
マテリアル工学科	110	—	440	マテリアル工学科	110	—	440	
電気電子情報工学科	128	—	512	電気電子情報工学科	128	—	512	
機械・航空宇宙工学科	160	—	640	機械・航空宇宙工学科	160	—	640	
エネルギー理工学科	40	—	160	エネルギー理工学科	40	—	160	
環境土木・建築学科	80	—	320	環境土木・建築学科	80	—	320	
農学部				農学部				
生物環境科学科	35	—	140	生物環境科学科	35	—	140	
資源生物科学科	55	—	220	資源生物科学科	55	—	220	
応用生命科学科	80	—	320	応用生命科学科	80	—	320	
合　計	2,142	56	8,908	合　計	2,134	56	8,860	
名古屋大学大学院				名古屋大学大学院				
人文学研究科				人文学研究科				
人文学専攻（M）	104	—	208	人文学専攻（M）	104	—	208	
人文学専攻（D）	61	—	183	人文学専攻（D）	61	—	183	
教育発達科学研究科				教育発達科学研究科				
教育科学専攻（M）	32	—	64	教育科学専攻（M）	32	—	64	
教育科学専攻（D）	16	—	48	教育科学専攻（D）	16	—	48	
心理発達科学専攻（M）	22	—	44	心理発達科学専攻（M）	22	—	44	
心理発達科学専攻（D）	15	—	45	心理発達科学専攻（D）	15	—	45	
法学研究科				法学研究科				
総合法政専攻（M）	35	—	70	総合法政専攻（M）	35	—	70	
総合法政専攻（D）	17	—	51	総合法政専攻（D）	17	—	51	
実務法曹養成専攻（専門職学位課程）	50	—	150	実務法曹養成専攻（専門職学位課程）	50	—	150	
経済学研究科				経済学研究科				
社会経済システム専攻（M）	30	—	60	社会経済システム専攻（M）	30	—	60	
社会経済システム専攻（D）	15	—	45	社会経済システム専攻（D）	15	—	45	
産業経営システム専攻（M）	14	—	28	産業経営システム専攻（M）	14	—	28	
産業経営システム専攻（D）	7	—	21	産業経営システム専攻（D）	7	—	21	
情報学研究科				情報学研究科				
数理情報学専攻（M）	14	—	28	数理情報学専攻（M）	14	—	28	
数理情報学専攻（D）	4	—	12	数理情報学専攻（D）	4	—	12	
複雑系科学専攻（M）	44	—	88	複雑系科学専攻（M）	44	—	88	
複雑系科学専攻（D）	8	—	24	複雑系科学専攻（D）	8	—	24	
社会情報学専攻（M）	18	—	36	社会情報学専攻（M）	18	—	36	
社会情報学専攻（D）	5	—	15	社会情報学専攻（D）	5	—	15	
心理・認知科学専攻（M）	15	—	30	心理・認知科学専攻（M）	15	—	30	
心理・認知科学専攻（D）	7	—	21	心理・認知科学専攻（D）	7	—	21	
情報システム学専攻（M）	33	—	66	情報システム学専攻（M）	33	—	66	
情報システム学専攻（D）	9	—	27	情報システム学専攻（D）	9	—	27	
知能システム学専攻（M）	40	—	80	知能システム学専攻（M）	40	—	80	
知能システム学専攻（D）	10	—	30	知能システム学専攻（D）	10	—	30	
理学研究科				理学研究科				
理学専攻（M）	188	—	376	理学専攻（M）	188	—	376	
理学専攻（D）	70	—	210	理学専攻（D）	70	—	210	
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻（D）	2	—	6	名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻（D）	2	—	6	

国立大学法人東海国立大学機構　設置申請に関わる組織の移行表（名古屋大学）

令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和9年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
医学系研究科				医学系研究科				
総合医学専攻（D）	151	—	604	総合医学専攻（D）	151	—	604	
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻（D）	4	—	16	名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻（D）	4	—	16	
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻（D）	4	—	16	名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻（D）	4	—	16	
名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻（D）	2	—	8	名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学専攻	2	—	8	
医科学専攻（修士課程）	20	—	40	医科学専攻（修士課程）	20	—	40	
医科学専攻医療行政コース	10	—	10	医科学専攻医療行政コース	10	—	10	
総合保健学専攻（M）	70	—	140	総合保健学専攻（M）	70	—	140	
総合保健学専攻（D）	20	—	60	総合保健学専攻（D）	20	—	60	
工学研究科				工学研究科				
有機・高分子化学専攻（M）	34	—	68	有機・高分子化学専攻（M）	34	—	68	
有機・高分子化学専攻（D）	8	—	24	有機・高分子化学専攻（D）	8	—	24	
応用物質化学専攻（M）	34	—	68	応用物質化学専攻（M）	34	—	68	
応用物質化学専攻（D）	8	—	24	応用物質化学専攻（D）	8	—	24	
生命分子工学専攻（M）	28	—	56	生命分子工学専攻（M）	28	—	56	
生命分子工学専攻（D）	6	—	18	生命分子工学専攻（D）	6	—	18	
応用物理学専攻（M）	39	—	78	応用物理学専攻（M）	39	—	78	
応用物理学専攻（D）	9	—	27	応用物理学専攻（D）	9	—	27	
物質科学専攻（M）	39	—	78	物質科学専攻（M）	39	—	78	
物質科学専攻（D）	9	—	27	物質科学専攻（D）	9	—	27	
材料デザイン工学専攻（M）	34	—	68	材料デザイン工学専攻（M）	34	—	68	
材料デザイン工学専攻（D）	6	—	18	材料デザイン工学専攻（D）	6	—	18	
物質プロセス工学専攻（M）	35	—	70	物質プロセス工学専攻（M）	35	—	70	
物質プロセス工学専攻（D）	8	—	24	物質プロセス工学専攻（D）	8	—	24	
化学システム工学専攻（M）	34	—	68	化学システム工学専攻（M）	34	—	68	
化学システム工学専攻（D）	6	—	18	化学システム工学専攻（D）	6	—	18	
電気工学専攻（M）	34	—	68	電気工学専攻（M）	34	—	68	
電気工学専攻（D）	9	—	27	電気工学専攻（D）	9	—	27	
電子工学専攻（M）	47	—	94	電子工学専攻（M）	47	—	94	
電子工学専攻（D）	13	—	39	電子工学専攻（D）	13	—	39	
情報・通信工学専攻（M）	33	—	66	情報・通信工学専攻（M）	33	—	66	
情報・通信工学専攻（D）	8	—	24	情報・通信工学専攻（D）	8	—	24	
機械システム工学専攻（M）	66	—	132	機械システム工学専攻（M）	66	—	132	
機械システム工学専攻（D）	14	—	42	機械システム工学専攻（D）	14	—	42	
マイクロ・ナノ機械理工学専攻（M）	36	—	72	マイクロ・ナノ機械理工学専攻（M）	36	—	72	
マイクロ・ナノ機械理工学専攻（D）	8	—	24	マイクロ・ナノ機械理工学専攻（D）	8	—	24	
航空宇宙工学専攻（M）	38	—	76	航空宇宙工学専攻（M）	38	—	76	
航空宇宙工学専攻（D）	8	—	24	航空宇宙工学専攻（D）	8	—	24	
エネルギー理工学専攻（M）	18	—	36	エネルギー理工学専攻（M）	18	—	36	
エネルギー理工学専攻（D）	5	—	15	エネルギー理工学専攻（D）	5	—	15	
総合エネルギー工学専攻（M）	18	—	36	総合エネルギー工学専攻（M）	18	—	36	
総合エネルギー工学専攻（D）	4	—	12	総合エネルギー工学専攻（D）	4	—	12	
土木工学専攻（M）	36	—	72	土木工学専攻（M）	36	—	72	
土木工学専攻（D）	9	—	27	土木工学専攻（D）	9	—	27	
名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻	5	—	15	名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻	5		15	
生命農学研究科				生命農学研究科				
森林・資材科学専攻（M）	27	—	54	森林・資材科学専攻（M）	27	—	54	
森林・資材科学専攻（D）	6	—	18	森林・資材科学専攻（D）	6	—	18	
植物生産科学専攻（M）	30	—	60	植物生産科学専攻（M）	30	—	60	
植物生産科学専攻（D）	9	—	27	植物生産科学専攻（D）	9	—	27	
動物科学専攻（M）	28	—	56	動物科学専攻（M）	28	—	56	
動物科学専攻（D）	7	—	21	動物科学専攻（D）	7	—	21	
応用生命科学専攻（M）	66	—	132	応用生命科学専攻（M）	66	—	132	
応用生命科学専攻（D）	16	—	48	応用生命科学専攻（D）	16	—	48	
名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻（D）	2	—	6	名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻（D）	2	—	6	
名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻	2	—	6	名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻	2	—	6	
国際開発研究科				国際開発研究科				
国際開発協力専攻（M）	44	—	88	国際開発協力専攻（M）	44	—	88	
国際開発協力専攻（D）	22	—	66	国際開発協力専攻（D）	22	—	66	
多元数理科学研究科				多元数理科学研究科				
多元数理科学専攻（M）	47	—	94	多元数理科学専攻（M）	47	—	94	
多元数理科学専攻（D）	30	—	90	多元数理科学専攻（D）	30	—	90	
環境学研究科				環境学研究科				
地球環境科学専攻（M）	53	—	106	地球環境科学専攻（M）	53	—	106	
地球環境科学専攻（D）	24	—	72	地球環境科学専攻（D）	24	—	72	
都市環境学専攻（M）	47	—	94	都市環境学専攻（M）	47	—	94	
都市環境学専攻（D）	21	—	63	都市環境学専攻（D）	21	—	63	
社会環境学専攻（M）	27	—	54	社会環境学専攻（M）	27	—	54	
社会環境学専攻（D）	13	—	39	社会環境学専攻（D）	13	—	39	
創薬科学研究科				創薬科学研究科				
基盤創薬学専攻（M）	32	—	64	基盤創薬学専攻（M）	32	—	64	
基盤創薬学専攻（D）	10	—	30	基盤創薬学専攻（D）	10	—	30	
合計	2,475	—	5,883	合計	2,475	—	5,883	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外の教員（助手を除く）	備考
専門科目（必修）	看護学教育論	１前		1			○				1				1	オムニバス方式
	看護学研究方法論	１前		1			○			2	2				1	オムニバス方式
	ヘルスケア・イノベーション特講	１後		2			○								1	
	地域包括ケア看護学特講	１通		2			○			2	5				2	オムニバス方式
	地域包括ケア看護学演習	２通		2				○		5	7					
	特別研究	１～３通		6				○		5	7					
	小計（６科目）	－	－	14	0	0	－			5	7	0	0	0	5	
専門科目（選択）	看護政策特講	１前			1		○			1	1				3	オムニバス方式
	データサイエンス特講	１前			1		○				1				2	オムニバス方式
	ヘルステック特講	１後			1		○			1	2				2	オムニバス方式
	小計（３科目）	－	－	0	3	0	－			2	3	0	0	0	7	
合計（９科目）		－	－	14	3	0	－			5	7	0	0	0	11	

学位又は称号	博士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
原則として３年以上在学し、専門科目（必修）から１４単位、専門科目（選択）から２単位の合計１６単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士後期課程の目的に応じ、博士論文による研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

補正前

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員以外の教員（助手を除く）	備考
専門科目（必修）	看護学教育論	１前		1			○			1	1					オムニバス方式・共同（一部）
	看護学研究方法論	１前		1			○			2	2				1	オムニバス方式
	ヘルスケア・イノベーション特講	１後		2			○								1	
	地域包括ケア看護学特講	１通		2			○			2	5				2	オムニバス方式
	地域包括ケア看護学演習	２通		2				○		6	7					
	特別研究	１～３通		6				○		6	7					
	小計（６科目）	－	－	14	0	0	－			6	7	0	0	0	4	
専門科目（選択）	看護政策特講	１前			1		○			1	2				2	オムニバス方式
	データサイエンス特講	１前			1		○			1					2	オムニバス方式
	ヘルステック特講	１後			1		○			1	2				2	オムニバス方式
	小計（３科目）	－	－	0	3	0	－			3	4	0	0	0	6	
合計（９科目）		－	－	14	3	0	－			6	7	0	0	0	9	

学位又は称号	博士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
原則として３年以上在学し、専門科目（必修）から１４単位、専門科目（選択）から２単位の合計１６単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士後期課程の目的に応じ、博士論文による研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（医学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
教養科目		初年次セミナー	１前		2			○			6	10		13	1		
	人文科学	哲学入門															
		正義について哲学しよう	１前			2		○								1	
		西洋哲学入門	１後			2		○								1	
		批判的思考（クリティカルシンキング）	１後			2		○								1	
		人間・死生学															
		現在人間論	１後			2		○								1	
		近現代思想															
		日本の近代思想	１後			2		○								1	
		自由と現代社会	１前			2		○								1	
		西洋近現代思想	１後			2		○								1	
		東洋・日本思想															
		インド思想の特質	１前			2		○								1	
		倫理学															
		倫理学とは何か	１後			2		○								1	
		宗教学															
		比較宗教学概論	１前			2		○								1	
		社会問題と宗教	１後			2		○								1	
		歴史学入門															
		歴史学とは何か	１前			2		○								1	
		西洋・中東史															
		西洋史（イギリス近代史）	１前			2		○								1	
		西欧諸国形成史	１前			2		○								1	
		中国・朝鮮半島史															
		朝鮮・韓国の文化と日本との交流史	１後			2		○								1	
		中国史	１後			2		○								1	
		世界近現代史															
		現代国際関係史	－			2		○								－	令和7年度非開講
		アメリカ概論	１前			2		○								1	
		日本史															
		日本の歴史	１後			2		○								1	
		日本近・現代史															
		近現代日本の政治と国家主義運動	１後			2		○								1	
		民俗学・人類学															
		人類学入門	１後			2		○								1	
		文学															
		文学とは何か	１前			2		○								1	
		外国文学															
		朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能	１前			2		○								1	
		英米文学を読む	１前・後			2		○								1	
		三国志時代の文学	１後			2		○								1	
		西洋文学論	１後			2		○								1	
		ロシア革命と文学	１後			2		○								1	
		日本文学															
		近世文学の世界	１前			2		○								1	

教養科目	人文科学	中世日本の絵物語の世界	1後			2		○									1		
		言語学入門																	
		日本語学入門	1前・後			2		○									1		
		一緒に学ぼまい！岐阜の方言と南欧の言語	1前			2		○									1		
		言語学																	
		北欧のことばと地域の方言	1前			2		○									1		
		フランス語論	1前			2		○									1		
		児童の文章表現	1後			2		○									1		
		映画で見る英語の諸言語現象と欧米文化	1前			2		○									1		
		日本語再発見	1前			2		○									1		
		日本語表現論																	
		劇作における会話表現	1前			2		○									1		
		日本語口頭表現	1前・後			2		○									1		
		実用的な日本語表現を学ぶ	―			2		○									―	令和7年度非開講	
		あいみょんの歌詞から学ぶ日本語表現	1後			2		○									1		
		心理学入門																	
		心理学概論	1前			2		○									5	オムニバス方式	
		社会心理学	1後			2		○									1		
		心理学																	
		幼児発達支援入門	1後			2		○									1		
		心理学実験・調査法																	
		心理学実験・調査法	1前			2		○									1		
		西洋文化論																	
		ロシア人の生活と言語	1前			2		○									2	共同	
		西洋建築史	1後			2		○									1		
		ロシアの自然と言語	1後			2		○									2	共同	
		日本文化論																	
		日本言語文化論：国際教育史	1前			2		○									1		
		礼儀作法の理論と背景	1前			2		○									1		
		現代文化論																	
		現代の文化研究	1後			2		○									1		
		科学技術と人間社会	1前			2		○									5	オムニバス方式	
		異文化論																	
		社会の中の言語・言語の中の社会	1後			2		○									1		
		リトアニア学	1前			2		○									2	オムニバス方式	
		グローカル人材としての諸外国理解	1後			2		○									11	オムニバス方式	
		美術論																	
		美術史	1前			2		○									1		
		デザイン論	1前			2		○									1		
		カリグラフィ論	1後			2		○									1		
		音楽論																	
		オーケストラ音楽を聴く	1前			2		○									1		
		実用作曲法	1前・後			2		○									1		
		ドイツ歌曲への誘い	1前			2		○									1		
		ピアノ基礎（連弾）	1前			2		○									1		
	社会科学	法学入門																	
		法とは何か	1前			2		○									1		
		立法体験：まちづくり条例制定の体験	―			2		○									―	令和7年度非開講	
		日本国憲法																	
		憲法	1前・後			2		○									1		
		人権	1前			2		○									1		
		教職のための憲法	1後			2		○									1		
		社会法																	
		労働と法	1後			2		○									1		

教養科目	社会科学	裁判法																
		市民と裁判	1後			2	○									1		
		刑事法																
		犯罪と刑罰について	1後			2	○									1		
		知的財産権法																
		知的財産権法入門	1前			2	○									5	オムニバス方式	
		現代政治論																
		現代日本の政治	1前			2	○									1		
		日本の政治と世界	1後			2	○									1		
		近代日本の政治と行政	1後			2	○									1		
		平和学																
		国際平和学	1前			2	○									1		
		経済学入門																
		現代の日本経済	1前			2	○									1		
		社会における経済の仕組み	1前			2	○									1		
		経済政策	1後			2	○									1		
		経営学入門																
		経営学とは何か	1前			2	○									1		
		はじめての経営学	1前			2	○									2	オムニバス方式	
		ファイナンス・アカウンティング入門	1後			2	○									2	オムニバス方式	
		起業入門	1前			2	○									1		
		マネージメント論																
		マーケティング論入門	1前			2	○									1		
		マネジメントシステムと監査	1前			2	○									未定	オムニバス方式 集中	
		めざせソーシャルビジネス起業	1前			2	○									1	連携開設科目	
		PBLマーケティング	1前			2	○									1	連携開設科目 集中	
		社会学入門																
		社会階層論	1前			2	○									1		
		やさしいジェンダー学入門	1後			2	○									1		
		社会の中の看護	1後			2	○			1	2		4				オムニバス方式	
		現代社会論																
		少子高齢化社会	1前			2	○									1		
		現代を生きる家族	1前			2	○			1	2		2				オムニバス方式	
		社会の基盤	1後			2	○									7	オムニバス方式	
		宇宙時代を生きる	1後			2	○									1		
		Amishのライフスタイルから現代社会を考える	1後			2	○									1		
		ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）	1後			2	○						1			10	オムニバス方式	
		情報社会論	1前			2	○									1		
		メディア論																
		メディア論の基礎	1前			2	○									1		
		メディアの特徴・歴史・現状・課題	1前			2	○									1		
		国際メディア論	1後			2	○									1		
		地域論																
		環境学入門	1前			2	○									1	連携開設科目	
		教育論																
		障害児教育臨床学	1前			2	○									1		
		教育哲学	1前・後			2	○									1		
		学校の社会的意味を問う	1後			2	○									1		
		特別支援教育ベーシック	1前			2	○									1		
		社会総合																
		生活の経済	1前			2	○									1		
	社会科学	環境、CSR（企業の社会的責任）とマネジメント	―			2	○									―	令和7年度非開講	
		現代社会の労働：労働問題を考える	1前			2	○									1		
		安全科学																

教養科目	自然科学	交通安全の科学	1前			2	○									7	オムニバス方式
		社会安全学入門	1後			2	○									1	
		教養の数学															
		図学	1後			2	○									1	
		数学の創造と活用	1後			2	○									1	
		基礎代数学															
		古典数学へのいざない	1前			2	○									1	
		基礎解析学															
		微分積分学	1前			2	○									1	
		基礎統計学															
		Excelで学ぶ基礎統計学	1後			2	○									1	
		実感する統計学	1後			2	○									1	
		物理学入門															
		物理実験で調べてみよう	1前			2	○									1	連携開設科目 集中
		教養の物理学															
		雷の科学	1前			2	○									1	
		物性の力学	1後			2	○									2	オムニバス方式
		力学現象の数学的見方	1後			2	○									1	
		日曜大学からはじめる力学	1前			2	○									1	
		現代物理学															
		表面張力の物理学	―			2	○									―	令和7年度非開講
		化学入門															
		日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ	1前・後			2	○									1	
		身近なものから学ぶ化学	1前			2	○									2	オムニバス方式
		身の回りで起こる現象から最先端技術に関わる化学	1後			2	○									1	
		化学実験で調べてみよう	1前			2	○									1	連携開設科目 集中
		教養の化学															
		化学概論	1後			2	○									2	オムニバス方式
		現代の視点から、古典に学ぶ（化学系）	1後			2	○									7	オムニバス方式
		現代化学															
		プラスチック材料の基礎	1前			2	○									1	
		ソフトマター	1後			2	○									3	オムニバス方式
		ケミカルエンジニアリング入門	1前			2	○									3	オムニバス方式
		生物学入門															
		現代生物学入門	1前			2	○									3	オムニバス方式
		微生物と病気	1前			2	○									6	オムニバス方式
		森と人の生態学（岐阜の植生から学ぶ）	1後			2	○									1	
		教養の生物学															
		動物と病気	1後			2	○									3	オムニバス方式
		ヒトのからだ	1後			2	○									5	オムニバス方式
		生命の仕組み	1前			2	○									4	オムニバス方式
		食の多様な役割	1前			2	○									4	オムニバス方式
		現代生物学															
		薬の細胞生物学	1後			2	○									1	
		生き物よもやま話	1後			2	○									14	オムニバス方式
		生物共生論	1前			2	○									3	オムニバス方式
		実践生物化学	1前			2	○									1	
		教養の医学															
		医学史	1前			2	○									14	オムニバス方式
		幹細胞と再生医学	1後			2	○									2	オムニバス方式
		現代医学															
		身近な薬と毒の科学	1後			2	○									2	オムニバス方式
		現代医療の最前線	1前			2	○									15	オムニバス方式
		教養の宇宙地球科学															

教養科目	自然科学	気象学概論	1前			2		○									2	オムニバス方式
		地球環境の変遷	1後			2		○									1	
		ESD入門	1前			2		○									1	
		教養の環境学																
		自然災害と生活	1後			2		○									2	オムニバス方式
		生物の多様性と人間社会	1前			2		○									5	オムニバス方式
		生物生産と環境	1後			2		○									3	オムニバス方式
		里山の水辺の環境学	1前			2		○									1	
		地球史における環境問題：水・土・生命・人	1後			2		○									1	
		現代環境学																
		エネルギー問題	1前			2		○									1	
		生物多様性を支える森林と動物たち	1前			2		○									4	オムニバス方式
		世界の食料と人口問題	1前			2		○									5	オムニバス方式
		ESD実践研究	1後			2		○									1	
		キャンパス緑地で学ぶグリーンインフラ入門	1後			2		○									1	
		世界の農業事情	1後			2		○									5	オムニバス方式
		自然科学総合																
		化学と生物のインターフェース	1後			2		○									5	オムニバス方式
		科学的なものの考え方	1後			2		○									2	オムニバス方式
		数値シミュレーション入門	1前			2		○									1	
		ものの科学	1後			2		○									1	
		化学と生命科学	1前			2		○									7	オムニバス方式
		古典に学ぶ（偉大な科学者の学問と人生）	1後			2		○									2	オムニバス方式
		生物間コミュニケーション	1前			2		○									3	オムニバス方式
		ロボット文化論	1後			2		○									2	オムニバス方式
		食と調理	1後			2		○									1	
		生とリプロダクティブヘルス/ライツ	1前			2		○			1	1			2			オムニバス方式
		実用例から学ぶプラズマ	1後			2		○									4	オムニバス方式
		メタバース文化論	1後			2		○									2	オムニバス方式
		自然科学実験講座																
		ご飯までのフィールド科学	1前			2		○									5	オムニバス方式
		家畜たちのフィールド科学	1前			2		○									1	
		森と川のフィールド科学	1後			2		○									2	オムニバス方式
		金属を使ったものづくり	1前・後			2		○									1	集中
		情報学入門																
		ITの歴史と未来	1前			2		○									1	
		経営のためのオペレーションズ・リサーチ	1後			2		○									1	
		教養の情報学																
		オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング	1前			2		○									1	
		認知科学入門	1前			2		○									1	
	岐阜学	地域と環境SDGs	1前・後			2		○									6	オムニバス方式
		地域社会と災害	1後			2		○			1						9	オムニバス方式
		畜産・水産業の歴史と食文化	1後			2		○									3	オムニバス方式
		世界の食文化	1後			2		○									6	オムニバス方式
		人権と社会教育	1後			2		○									3	オムニバス方式
		現代社会と学習・教育（生涯学習概論Ⅰ）	1前			2		○									3	オムニバス方式
		生涯学習概論Ⅱ	1前			2		○									3	オムニバス方式
		社会教育施設・支援者論	1後			2		○									3	オムニバス方式
		社会教育経営論	1前			2		○									3	オムニバス方式 集中
		学校と家庭・地域の連携	1前			2		○									3	オムニバス方式
		教育社会システム論（教育社会学）	1前			2		○									3	オムニバス方式 集中
		生涯学習成果の還元とボランティア活動	1後			2		○									3	オムニバス方式 集中
		社会教育実習	1後			2		○									3	オムニバス方式 集中
		野外活動実習	1後			2		○									3	オムニバス方式 集中

教養科目	岐阜学	社会教育課題研究（学習プログラム開発論）	1後			2		○									3	オムニバス方式
		環境リーダー実践（上級）Ⅰ	1前			2		○									3	オムニバス方式 集中
		環境リーダー実践（上級）Ⅱ	1後			2		○									3	オムニバス方式 集中
		岐阜県の生物の分布と生態	1後			2		○									6	オムニバス方式
		岐阜大学の教育研究と運営	1前			2		○			1						15	オムニバス方式
		まちづくりリーダー入門	1前			2		○									3	オムニバス方式
		まちづくりリーダー実践	1後			2		○									3	オムニバス方式 集中
		岐阜の自然（地質・活断層と水環境）	1前			2		○									3	オムニバス方式
		フューチャーセンター入門	1前・後			2		○									6	オムニバス方式
		岐阜県の生活と文化	1前			2		○									4	オムニバス方式
		人と自然との関わりから見た岐阜	1前			2		○									7	オムニバス方式
		人と自然の関わりから見た岐阜（実践）	1後			2		○									8	オムニバス方式
		岐阜の産業：地域で活躍する企業と人	1前			2		○									14	オムニバス方式
		地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る	1前			2		○									6	オムニバス方式
		岐阜にまつわる東洋史	1前			2		○									1	
		地域防災リーダー基礎	1前・後			2		○			1						4	オムニバス方式
		岐阜県の環境教育と科学・技術	1後			2		○									7	オムニバス方式
		古今のものづくり	1前・後			2		○									1	
		高年次教養フォーラム	1後			2		○									8	オムニバス方式
		キャリア形成論	1前・後			2		○									1	
		地域福祉をめぐる環境解決型実習	1後			2		○									1	
		現代社会とボランティア・地域活動	1前・後			2		○									3	オムニバス方式
		生活と金融・人生設計と資産形成	1後			2		○									1	
		自己省察と将来のキャリア設計	1後			2		○									6	オムニバス方式
		自分らしいキャリア設計Ⅰ	1前・後			2		○									5	オムニバス方式
		アントレプレナーシップ入門	1前			2		○									1	
		高度専門職業人概論	1前			2		○									7	オムニバス方式
		地域系協学実習（職場体験）Ⅰ	1前			2		○									6	オムニバス方式
		地域系協学実習（職場体験）Ⅱ	1後			2		○									6	オムニバス方式
		産業系協学実習（職場体験）Ⅰ	1前			2		○									6	オムニバス方式
		産業系協学実習（職場体験）Ⅱ	1後			2		○									6	オムニバス方式
		地域リーダー実践（上級）Ⅰ	1前			2		○									6	オムニバス方式
		地域リーダー実践（上級）Ⅱ	1後			2		○									6	オムニバス方式
		産業リーダー実践	1前・後			2		○									6	オムニバス方式
		持続可能な地域と環境リテラシー	1後			2		○									7	オムニバス方式
		グローカリゼーションと異文化理解	1前			2		○									5	オムニバス方式
		グローカルリーダー実践Ⅰ	1前			2		○									3	オムニバス方式
		グローカルリーダー実践Ⅱ	1後			2		○									3	オムニバス方式
		現代社会問題と社会教育	1前			2		○									1	
		地域共創セミナー（サマースクール）	1前			2		○									8	オムニバス方式 集中
		学習者の特性と支援方法	1前			2		○									4	オムニバス方式 集中
		社会教育における地域ネットワーク形成	1前			2		○									1	集中
	岐阜学	岐阜の地方自治とその課題・政策法務の可能性	1後			2		○									1	
		社会教育の意義と課題	1後			2		○									1	
		世界農業緯線入門	1前			2		○									1	
		健康科学	1後			2		○									9	オムニバス方式
		スポーツコンディショニング	1前			2		○									1	
		ヘルスプロモーションと地域保健	1後			2		○			1	2		2				オムニバス方式
		健康とQOL	1前			2		○			2	1		3				オムニバス方式
		栄養と運動	1後			2		○									1	
		アダプテッドスポーツ	1後			2		○									1	
		ファストピッチ・ソフトボール（ウインドミル投法入門）	1前			2		○									1	
		ヨガ・エアロビクス	1前			2		○									1	
		卓球	1前・後			2		○									2	分担

教養科目	スポーツ・健康科学	卓球・水泳	1前			2		○								2	分担
		ペタンク（球技）	1前・後			2		○								1	
		新卓球（ラージボール）	1後			2		○								1	
		テニスⅠ	1前			2		○								1	
		テニスⅡ	1後			2		○								1	
		バトミントンAⅠ	1前・後			2		○								3	分担
		ハンドボール	1前			2		○								1	
		ボールゲームⅠ	1前			2		○								1	
		ボールゲームⅡ	1後			2		○								1	
		ボールゲームⅢ	1前			2		○								2	分担
		バスケットボールA	1後			2		○								1	
		バレーボールA	1前			2		○								1	
		サッカー	1後			2		○								1	
		ジョギングⅡ	1前・後			2		○								2	分担
		雪上スポーツで学ぶ（スキー）	1後			2		○								2	分担
		剣道Ⅰ	1後			2		○								1	
		バランスボールエクササイズ	1前			2		○								1	
		太極拳	1前			2		○								1	
	英語	英語１	1前		1			○								3	分担
		英語２	1後		1			○								3	分担
		英語３	2前		1			○								3	分担
		英語４	3前		1			○								3	分担
		English Advanced Reading（上級）	1前			1		○								1	
		English Advanced Writing（上級）	1後			1		○								1	
		Studium Generale A	1後			2		○								1	連携開設科目
		Studium Generale B	1前			2		○								1	連携開設科目
		Summer Camp	1前			2		○								1	連携開設科目 集中
		海外留学準備セミナー	1前・後			2		○								未定	連携開設科目 集中
	言語と文化	言語と文化（ドイツ語）	1前・後			2		○								3	分担
		言語と文化（フランス語）	1前・後			2		○								2	分担
		言語と文化（中国語）	1前・後			2		○								4	分担
		言語と文化（ポルトガル語）	1前			2		○								1	
		言語と文化（朝鮮・韓国語）	1前			2		○								1	
		言語と文化（アイスランド語）	1後			2		○								1	
		短期海外研修A	1前			2		○								未定	連携開設科目 集中
		短期海外研修B	1後			2		○								未定	連携開設科目 集中
		短期海外研修C	1前			2		○								未定	連携開設科目 集中
		短期海外研修D	1後			2		○								未定	連携開設科目 集中
		短期海外研修E	1前			2		○								1	連携開設科目 集中
		短期海外研修F	1後			2		○								1	連携開設科目 集中
教養科目	言語と文化	ドイツ語Ⅰ	1前・後			1			○							2	
		ドイツ語Ⅱ	1前・後			1			○							2	
		フランス語Ⅰ	1前・後			1			○							1	
		フランス語Ⅱ	1前・後			1			○							1	
		中国語Ⅰ	1前・後			1			○							4	
		中国語Ⅱ	1前・後			1			○							3	
		ポルトガル語Ⅰ	1後			1			○							1	
		ポルトガル語Ⅱ	1後			1			○							1	
		朝鮮・韓国語Ⅰ	1後			1			○							1	
		朝鮮・韓国語Ⅱ	1後			1			○							1	
	社会人リテラシー	日本語表現Ⅰ（初級）	1前・後		1			○								1	集中
		日本語表現Ⅱ（中級）	1前・後				1	○								1	集中
		先輩社会人に学ぶ：実りある学生生活を送るために	1前・後				1	○								1	集中
		データ科学基礎	1前		2			○								2	集中

	数理・データサイエンス	データ科学基礎演習Ａ	１前・後		2			○							2	集中
		データ科学基礎演習Ｂ	１前・後				2	○							3	集中
		データサイエンス入門	１前・後				2	○							1	
		小計（３０４科目）	－	－	11	572	6	－			6	10	0	13	1	366	
	専門基礎科目	医療英語Ⅰ	３前	○	1			○							1	
		医療英語Ⅱ	４後	○	1			○							1	
		医療英語Ⅲ	４後	○		1		○			1					集中
		形態機能学Ⅰ	１前	○	2			○			1					
		形態機能学Ⅱ	１前	○	1				○		1					
		形態機能学Ⅲ	１後	○	1				○		1					
		生化学	１後	○	2			○							1	
		疾病の成因と予防Ⅰ	１後	○	1			○							1	
		薬理学	１後	○	1			○							2	
		疾病の成因と予防Ⅱ	１後	○	1			○							4	
		薬剤学	１後	○	1			○							5	
		栄養学	２前	○	1			○							1	
		成人・老年病態論Ⅰ	２前	○	2			○			1			3		
		成人・老年病態論Ⅱ	２前	○	2			○			1			3		
		成人・老年病態論Ⅲ	２前	○	1			○			1			3		
		遺伝情報学	２後	○		1		○							1	
		地域福祉活動	１前	○	1			○							1	
		基礎情報学	１前	○		2		○							1	
		公衆衛生学	１後	○	1			○							1	
		保健医療福祉行政論	２前	○	1			○			1				2	
		保健統計学	２後	○	2			○			1					
		疫学	３前	○		2		○			1					
		医療概論	１前	○	2			○								
		生命倫理学	２前	○	1			○							1	
		小計（２４科目）	－	－	26	6	0	－			4	0	0	3	0	21	
	基礎看護学	看護学原論	１前	○	2			○				2					
		初期体験実習	１前	○	1					○		2		2	1		
		基礎看護技術Ⅰ	１後	○	2				○			2		2	1		
		基礎看護技術Ⅱ	２前	○	2				○			2		2	1		
		臨床看護総論	２後	○	1			○				2		2	1		
		看護過程演習	２前	○	1				○			2		2	1		
		フィジカルアセスメント	２前	○	2			○				1		2	1		
		看護倫理	２前	○	1			○				1					
		基礎看護学実習	２後	○	2					○		2		2	1		
		小計（９科目）	－	－	14	0	0	－				2	0	2	1	0	
	母性看護学	母性看護論	２前	○	1			○			1						
		周産期看護論	２前	○	1			○			1	2		2			
		母性看護方法Ⅰ	２後	○	1			○			1	1					
		母性看護方法Ⅱ	３前	○	1				○		1	2		2			
		母性看護学実習	３後	○	2					○	1	2		2			
		小計（５科目）	－	－	6	0	0	－			1	2	0	2	0	0	
	小児看護学	小児看護論	２前	○	1			○				1		1			
		小児健康援助論	２前	○	1			○				1		1			
		小児看護方法Ⅰ	２後	○	2			○				1		1			
		小児看護方法Ⅱ	３前	○	1				○			1		1			
		小児看護学実習	３後	○	2					○		1		1			
		小計（５科目）	－	－	7	0	0	－			0	1	0	1	0	0	
		成人看護論	２前	○	1			○			2						
		成人看護方法Ⅰ	２前	○	2			○			2	1		3			
		成人看護方法Ⅱ（慢性期）	２後	○	1				○		1	1		1			

専門科目	成人看護学	成人看護方法Ⅱ（急性期）	2後	○	1				○		1			2		
		救急看護	3前	○		1		○			1			1		
		成人（慢性期・急性期）事例展開	3前	○	1				○		2	1		3		
		成人看護学実習Ⅰ（慢性期）	3後	○	2					○	1	1		1		
		成人看護学実習Ⅱ（周術期）	3後	○	2					○	1			2		
		成人看護学実習Ⅲ（クリティカルケア	3後	○	1					○	1			2		
		小計（9科目）	－	－	11	1	0	－			2	1	0	3	0	0
	老年看護学	老年看護論	2前	○	1			○				1		1		
		老年看護方法Ⅰ	2後	○	2			○								
		老年看護方法Ⅱ	3前	○	1				○			1		2		
		認知症と看護	3前	○		1		○				1		2		
		老年看護学実習	3後	○	3					○		1		2		
		小計（5科目）	－	－	7	1	0	－			0	1	0	2	0	0
	精神看護学	精神看護論	2前	○	2			○				1		1		1
		精神看護方法Ⅰ	2後	○	1			○				1		1		
		精神看護方法Ⅱ	3前	○	1				○			1		1		
		精神看護学実習	3後	○	2					○		1		1		
		小計（4科目）	－	－	6	0	0	－			0	1	0	1	0	1
	地域看護学	家族看護学	2前	○		1		○			1	1				
		地域看護論	2前	○	1			○			1	2				
		在宅看護論	2後	○	2			○			1	2		2		
		在宅看護方法	3前	○	1				○		1	2		2		1
		在宅看護学実習	3後	○	2					○	1	2		2		
		小計（5科目）	－	－	6	1	0	－			1	2	0	2	0	1
	看護の統合と実践	感染と看護Ⅰ	1前	○	1			○				1	1			2
		感染と看護Ⅱ	2後	○	1			○								2
		世界の人々と看護	2後	○	1			○			1					
		看護管理論	3前	○	1			○				1				1
		研究方法論	3後	○	1			○				4		3		
		災害看護	4後	○	1			○			2	2		2		
		エンドオブライフにある人への看護	4後	○	1			○			3	2		2		
		統合実習	4前	○	2					○	4	10		13	1	
		地域生活体験実習Ⅰ	1通	○	1					○	6	10		13	1	
		地域生活体験実習Ⅱ	2通	○	1					○	6	10		13	1	
		卒業研究	4通年	○	3				○							
		小計（11科目）	－	－	14	0	0	－			6	10	0	13	1	5
合計（68科目）			－	－	108	581	6	－			6	10	0	13	1	28

学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
原則として4年以上在学し、教養科目30単位以上、専門基礎科目26単位以上、専門科目（必修）71単位、看護師課程の専門基礎科目・専門科目の選択科目から4単位以上の合計131単位以上を修得していること。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（大学院医学系研究科看護学専攻博士前期課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員（助手を除く）以外の教員	
共通科目		看護学研究方法論Ⅰ	１前		2			○			2						共同
		看護理論	１前・集		2			○			1	1					オムニバス方式
		看護学研究方法論Ⅱ	１後			1		○			1						
		看護学研究方法論Ⅲ	１後			1		○			2						オムニバス方式・共同（一部）
		医療英語	１前			2		○								1	
		生活機能と看護	１前			1		○				1					
		医療情報学	１前・集			1		○			1					3	オムニバス方式
		生体構造動態学	１前・集			2		○			1					1	オムニバス方式
		看護マネジメント論	１後・集			2		○								2	オムニバス方式
		情報・統計学	１後			1		○			1						
		生命倫理・医療倫理学	１前・集			1		○								1	
		小計（１１科目）	－	－	4	12	0	－			6	2	0	0	0	8	
専門科目・看護学教育	継続看護学教育	看護学教育特論	１前		2			○			1	1					オムニバス方式
		看護学教育特別演習	１後		2				○		1	1					オムニバス方式
		看護学教育特別研究Ⅰ	１通・集		4				○		1	1					
		看護学教育特別研究Ⅱ	２通・集		4				○		1	1					
		看護学教育方法特論	１前			2		○			1	1					オムニバス方式
		看護学教育評価特論	１後			2		○			1	1					共同
		小計（６科目）	－	－	12	4	0	－			1	1	0	0	0	0	
	総合基礎科学	生命機能学特論	１前・集		2			○			1						
		生命機能学特別演習	１前・集		2				○		1						
		生命機能学特別研究Ⅰ	１通・集		4				○		1						
		生命機能学特別研究Ⅱ	２通・集		4				○		1						
		総合科学特論	１前		2			○			1						
		総合科学特別演習	１後		2				○		1						
		総合科学特別研究Ⅰ	１通・集		4				○		1						
		総合科学特別研究Ⅱ	２通・集		4				○		1						
		バイオインフォマティックス特論	１前・集			2		○			1						
		疫学的研究方法特論	１後			2		○			1						隔年
		小計（１０科目）	－	－	24	4	0	－			2	0	0	0	0	0	
	地域生涯発達看護学	母性看護学特論	１前		2			○			1	1					共同
		母性看護学特別演習	１後		2				○		1	1					共同
		母性看護学特別研究Ⅰ	１通・集		4				○		1	1					
		母性看護学特別研究Ⅱ	２通・集		4				○		1	1					
		小児看護学特論	１前		2			○				1					
		小児看護学特別演習	１後		2				○			1					
		小児看護学特別研究Ⅰ	１通・集		4				○			1					
		小児看護学特別研究Ⅱ	２通・集		4				○			1					
		成人急性期看護学特論	１前		2			○			1						
		成人急性期看護学特別演習	１後		2				○		1						
		成人急性期看護学特別研究Ⅰ	１通・集		4				○		1						
		成人急性期看護学特別研究Ⅱ	２通・集		4				○		1						
		成人慢性期看護学特論	１前		2			○			1	1					共同
		成人慢性期看護学特別演習	１後		2				○		1	1					共同
		成人慢性期看護学特別研究Ⅰ	１通・集		4				○		1	1					
		成人慢性期看護学特別研究Ⅱ	２通・集		4				○		1	1					
		老年看護学特論	１前		2			○				1					

専門科目・実践看護学		老年看護学特別演習	1後		2				○			1					
		老年看護学特別研究Ⅰ	1通・集		4				○			1					
		老年看護学特別研究Ⅱ	2通・集		4				○			1					
		ウィメンズヘルスケア特論	1前・集			2		○			1					1	オムニバス方式
		助産ケア特論	1後			2		○			1					2	オムニバス方式
		小児家族看護学特論	1後			2		○				1					
		小児慢性期ケア特論	1後・集			2		○				1					
		クリティカルケア特論	1前			2		○			1						
		セルフケア特論	1後			2		○			1						
		高齢者ケア特論	1後			2		○				1					
		小計（２７科目）	－	－	60	14	0	－			3	4	0	0	0	3	
	地域健康支援看護学	地域看護学特論	1前		2			○			1	2					オムニバス方式・共同（一部）
		地域看護学特別演習	1後		2				○		1	2					共同
		地域看護学特別研究Ⅰ	1通・集		4				○		1	2					
		地域看護学特別研究Ⅱ	2通・集		4				○		1	2					
		精神看護学特論	1前		2			○				1					
		精神看護学特別演習	1後		2				○			1				1	共同
		精神看護学特別研究Ⅰ	1通・集		4				○			1					
		精神看護学特別研究Ⅱ	2通・集		4				○			1					
		ICTとヘルスプロモーション	1後			2		○			1	2				2	オムニバス方式・共同（一部）
		地域保健活動特論	1後			2		○			1	2				2	オムニバス方式
		精神看護活動特論	1後			2		○			1	1				1	オムニバス方式
		小計（１１科目）	－	－	24	6	0	－			1	3	0	0	0	5	
合計（６５科目）			－	－	124	40	0	－			7	8	0	0	0	16	

学位又は称号	修士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
原則として２年以上在学し、共通科目から１２単位、専門科目のうち専攻する分野の開講科目から１４単位、同じく自由選択科目から４単位の合計３０単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文による研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（大学院医学系研究科看護学専攻博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	必修	看護学教育論		【概　要】 　看護基礎教育および継続教育において、看護学教育体系の中の位置づけと、その教育的機能を理解し、看護学教育の本質を踏まえ、関連理論および周辺学問の知見を統合し、現状の分析と課題の抽出を行う力を養う。 　また、国内外の看護教育に関する論文のクリティークを通して、研究を推進するための専門知識とクリティカルな思考を修得する。加えて、看護基礎教育課程、教育理論、教育方法、教育評価に関する課題解決の方法を理解し、その開発可能性について考察する能力を養う。 　さらに、看護実践の場における現任教育や、対象者への健康教育に応用可能な教育実践のあり方を探究する。 【目　標】 1. 看護学教育に関する基礎概念・理論を理解し、生涯学習体系における位置づけを説明できる。 2. 看護基礎教育および継続教育、教育課程の変遷と現状を分析し、その課題を明確化できる。 3. 我が国および諸外国の看護学教育を比較し、その特徴と課題を批判的に検討できる。 4. 看護教育における教育課程の開発から評価までのプロセスを理解し、適用できる。 5. 授業設計・教育方法・評価について統合的に理解し、実践に応用できる。 6. 医療および社会の変化を踏まえ、看護教育の新たな課題を踏まえた教育課程・方法の開発可能性を考察できる。 （オムニバス方式／全8回） （⑤ 社本 生衣／5回） ・我が国および諸外国の看護基礎教育の歴史・現状・課題 我が国および諸外国の看護教育制度および教育課程の変遷と課題 　我が国および諸外国の看護基礎教育の歴史的変遷と現状を概観し、教育制度および教育課程の特徴を比較する。社会的背景との関連から我が国の看護教育の課題を分析する。 ・看護基礎教育課程の開発と評価 教育プログラムの開発と評価 　看護基礎教育課程および教育プログラムの開発理論とプロセスを学び、到達目標の設定から評価までの一連の方法を理解し、実践への適用を検討する。 ・講義・演習の授業設計 臨地実習の授業設計 学生の主体的学習（アクティブラーニングなど）実施のための授業設計 　講義・演習および臨地実習の特性を踏まえた授業設計について学び、アクティブラーニングなど学生の主体的学習を促進する教育方法を理解し習得する。 ・模擬授業演習 　看護教育における授業設計に基づき模擬授業を実施し、相互の評価と振り返りを通して教育方法および指導力の向上を図る。 ・看護実践能力を高める教育 学習者理解と教育支援の方策 　看護実践能力の育成に資する教育のあり方を検討するとともに、学習者の特性や背景を踏まえた効果的な教育支援の方法を考察する。 （⑪竹下 美恵子／3回） ・看護教育学研究の国内外の動向 社会情勢を踏まえた看護教育の課題 ・継続教育の現状と課題 ・看護教育に関する厚生労働省・文部科学省の報告書・指針に基づく動向分析・国内外の看護学教育の現状	オムニバス方式

専門科目	必修	看護学研究方法論		【概 要】 看護学における高度な研究遂行能力を養成することを目的として、量的・質的・混合研究法など多様な研究方法論について理論と実践の両面から学習する。臨床現場や地域社会と連携した研究を遂行するために必要な調査設計、倫理的配慮、データ分析、理論構築等の知識・技能を涵養する。 【目 標】 1. 看護学の理論的背景を踏まえ、多様な研究方法論（量的・質的・混合）の特徴と適用条件を理解し、批判的に評価できる。 2. 自身の研究テーマに適した研究方法を論理的に選定し、学術的に妥当な研究計画を立案できる。 3. 倫理的配慮をふまえ、地域・臨床現場における実践的な研究を構築・遂行できる。 4. データの収集、管理、分析の各過程を自立して遂行でき、研究結果を理論的に解釈できる。 （オムニバス方式／全8回） （② 三尾 亜喜代／1回） ・質的研究法 質的研究の中でも、理論や概念構築、プロセスの解明を目的とするグラウンデッド・セオリー、TEA（Trajectory Equifinality Approach）、SCAT（Steps for Coding and Theorization）などの方法論とその適用について、実践例を基に学習する。また、事象がもつ「意味」やその成り立ち（構造と発生）について探究する現象学についても解説し、看護学における人間の経験理解に資する方法論を習得する。 （6 三好 美浩／1回） ・学際的研究の可能性 看護学の領域に留まらず、医学、公衆衛生学、社会学、教育学等といった関連する学問領域に跨る学際的研究の可能性について研究方法論を通じて理解し、知識を深め、実践に生かせる研究力の向上を図る。 具体的には、研究方法の背景も含めた量的・質的・混合研究法の特徴と選択基準、研究対象から得られるサンプルやデータに関する妥当性・信頼性の考え方について取り扱う。 （⑦ 小林 和成／1回） ・量的研究法 統計解析、及び機械学習の目的、主な手法、データ量、結果解釈、適用分野等について、また、質的研究と量的研究という区分を超えた混合研究法について、看護学分野における具体的な事例をもとに教授する。 （⑨ 杉村 鮎美／4回） ・混合研究法の実践 量的研究と質的研究の特性を踏まえ、研究デザインと統合手法（triangulation／joint display）を学習する。 看護学の臨床・地域課題における混合研究法の適用可能性と有用性を学習する。 ・看護理論と研究枠組み 研究計画の一貫性を担保するために、研究で扱う主要概念の定義を整理する方法を学習する。主要概念間の関係を概念図として可視化し、研究目的・方法・評価指標・結果解釈が整合するように研究枠組みを作成・点検する方法を学習する。 ・研究計画書の作成と評価 研究目的、仮説、方法、倫理的配慮を一貫して構築する計画立案の要点とその記載方法を学習する。 STROBE／CONSORT／COREQ／GRAMMS に基づく相互レビューの観点を用いて、計画の妥当性・実現可能性の評価方法を学習する。 ・研究資金・助成申請の書き方 研究審査の観点（新規性・実現可能性・波及効果・体制・費用対効果）と申請方法を学習する。自身のテーマで具体的な目的・方法・スケジュール・経費計画を立案し、基準に沿って改善点を明確にする。 （16 谷口 泰弘／1回） ・倫理的配慮と国際的研究基準 倫理審査、国際的倫理基準	オムニバス方式

専門科目	必修	ヘルスケア・イノベーション特講		【概 要】 地域包括ケアを基盤とするヘルスケア領域において、医療・看護の複雑な課題を構造的に理解し、革新的な解決策を共創できる高度な研究能力を養成する。国内外の医療・看護におけるイノベーション研究を文献レビューによって体系的に整理するとともに、WHO・OECD など国際機関の政策動向を踏まえ、ヘルスケア・イノベーションの理論的背景と実装の課題を検討する。 特に、認知科学を基盤とするデザイン思考、人間中心設計（HCD）、Experience-based Co-design（EBCD）など、現代のヘルスケアにおける共創的アプローチを通じて、患者・家族・医療者の生活世界を理解し、洞察・問題の再定義・プロトタイピングへと展開する質的研究プロセスを修得する。 最終的には、デザイン思考・HCD・EBCD を医学研究の方法論として深化させ、医療・看護領域の複雑な課題に対して科学的エビデンスと共創的アプローチを統合し、新しい地域包括ケアシステムを構想・検証する能力の育成を目指す。 【目 標】 1.医療・看護領域のイノベーション研究の潮流を理解し、批判的に考察できる。 2.デザイン思考・HCD・EBCD等を用いて、複雑な課題の「再構成（reframing）」ができる。 3.現場観察・文献レビュー・データ分析を統合した質的研究デザインを構築できる。 4.多職種協働・患者参加型の共創によるヘルスケアシステムの設計ができる。 5.実データを用いた課題抽出・介入仮説の構築・試行・評価ができる。 （全15回） （19 川瀬 真弓／15回） ・ガイダンス、ヘルスケア分野におけるイノベーション 課題解決構造について ・デザイン思考１ 共感、問題の定義について ・デザイン思考２ アイデア創出とプロトタイプ、テストについて ・システム思考１ 因果関係の構造について、事例分析 ・システム思考２ レバレッジポイントについて、事例分析 ・イノベーションと社会実装 持続可能なシステムの創出について ・ヘルスケア分野とデザイン UXデザイン、ユーザビリティ、アクセシビリティについて ・ヘルスケア分野とデータの活用 事例紹介、事例分析 ・文献レビュー 国内外の医療・看護におけるイノベーションの歴史と動向、WHO （Global Strategy on Digital Health）、OECDの動向 ・文献調査 国内外の医療・看護におけるイノベーション事例の収集とレビュー ・プロジェクト演習１ 高齢者ケア：患者さんへ直接取材 ・プロジェクト演習２ データ分析：テキストマイニングなど ・プロジェクト課題１ 課題の選定、共創で問題の定義 ・プロジェクト課題２ アイデア発想、解決策の創出、事前評価、修正 ・プロジェクト課題３ 発表、振り返り	

専門科目	必修	地域包括ケア看護学特講		【概 要】 地域包括ケアシステムの概念とその構築に関する理論と実践について、地域特性や現代社会の多様な課題（高齢化、少子化、多文化共生、医療資源の偏在等）を踏まえ俯瞰的な視野を持って探究する。地域で暮らす母子・障害者・高齢者・多様な文化的背景をもつ全ての人々、あらゆる健康レベルに対応した包括的なケアを支える看護職の専門的役割について考察し、地域包括ケアモデルの開発に資する視点を養う。各回の学習では、地域包括ケアの各領域における具体的な課題の分析と解決策の立案を通じて、多職種・多機関を巻き込んだリーダーシップおよび組織・システムへの働きかけを可能とするマネジメント能力を段階的に習得する。また、各国のケアシステムと比較し、看護職が果たすべき次世代のリーダーシップや政策提言・研究的貢献のあり方について検討する。 【目 標】 1. 地域包括ケアシステムの構造・課題・変遷について理論的に理解し説明できる。 2. 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を多面的に分析できる。 3. 国内外の文献から地域ケアモデルや看護職の機能と比較し、地域看護の課題と可能性を俯瞰的に論じることができる。 4. 自身の研究テーマと地域包括ケアとの関連性を見出し、論理的に統合できる。 5. 地域包括ケアの各領域の分析と実践課題への対応を通じて、多職種協働および組織・システムを動かすリーダーシップとマネジメント能力を発揮する方法を説明できる。 （オムニバス方式／全15回） （① 中川 ひろみ／2回） ・国内外の文献レビュー － リーダーシップ・マネジメント実践のエビデンス構築 国内外の地域包括ケアに関する理論・制度・実践知を比較検討し、看護リーダーシップ・マネジメントの実践に関するエビデンスを批判的に検討するとともに、得られた知見を研究テーマに統合する枠組みを形成する。多様な地域課題を横断的に理解し、看護職の専門的役割を基軸とした地域包括ケアモデルの理論化を進め、実証研究へと接続するための学術的基盤を確立する。 ・研究テーマへの統合と展望 － 次世代リーダーとしての研究課題の創出 地域包括ケアを支える看護学の高度化に向け、国際的なケアシステムの比較知と新たなモデル構築の視点を発展させる。地域特性に応じた包括ケアの革新を促す研究課題を創出し、自身が担う次世代の看護リーダーシップや政策提言につながる学術的展望を明確化することで、持続可能な地域ケア体系の構築に寄与する。 （② 三尾 亜喜代／1回） ・多文化共生と看護 － 異文化間調整を担うリーダーとしての看護職の役割 母児を中心に、諸外国および途上国の母子保健の現状と課題、海外在住日本人・在留外国人の母子保健の動向を解説する。さらに、多文化社会における異文化間調整を担う看護職のリーダーシップと役割を理解し、多職種協働や組織への働きかけに必要なマネジメント能力を検討し、具体的な実践方法について理解を深める。 （④ 小木曽 加奈子／4回） ・地域包括ケアの概念とリーダーシップの基盤 わが国においては、急激に高齢化が進む中で，さまざまな体制づくりや施策も後手になっている状況は否めない。医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が進められている。増え続ける高齢者の多くは複数の慢性的な疾患や障がいを併せ持ち、しかもそれらが完治することは少なく、身体状況などにより医療機関、高齢者施設、在宅などと療養の場を変えることになる。そのため、高齢者における地域包括ケアにおいては、療養の場が異なっても切れ目のないケア、すなわちシームレスケアを実現することが必要である。米国においてはこのような複雑なケアニーズをもつ高齢者への支援の強化が求められ、2003年に米国老年医学会ヘルスケアシステム委員会による立場表明が示されており、他国における高齢者ケアシステムとの比較により、地域包括ケアにおける様々な捉え方の理解につながり、わが国における具体的な対応策を考察し、地域包括ケアおけるリーダーシップ・マネジメント能力を高める。 ・地域包括ケアシステムの政策的背景とシステム・マネジメント 地域包括ケアシステムは、高齢者のケアニーズに応じて住まいの場を変えるということにもつながっている。今後も高齢者は主疾患の治癒やコントロールが不十分な場合であっても、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病院あるいは介護老人保健施設など、次の療養の場へのリロケーションが多くなると考えられる。リロケーションダメージを低減させるための様々な加算制度も創設されつつあるが、高齢者ケアの現状と課題を見出し、システム・マネジメント、倫理の視点などから課題解決策を検討できる。	オムニバス方式

・要介護者・在宅医療におけるケアマネジメントとリーダーシップ
　人生100年時代となり、人生の終焉のその時まで自立した生活を営む高齢者もあるが、多くは心身機能の低下によりさまざまな他者からの支援を受け、日常生活を送ることとなる。しかし、高齢者ケアの現場ではケアの拒否やセルフ・ネグレクトといった課題が散見されており、必要な社会資源を活用できない高齢者も多く存在する。認知機能の低下に伴う社会脳の障害は周知されつつあるが、これらの分野の研究は希薄であり、人生100年時代を見据えた高齢者の安寧に資する要介護者・在宅医療におけるケアマネジメントとリーダーシップについて地域包括ケアにおける看護の実践の発展可能性を理論と実践の統合の視点から考察する。

（9 大平 幸子／1回）
・精神障がい者支援と地域ケア
　精神障害者の地域生活支援を統合的に捉え、精神障害者が地域で安心して暮らすための制度設計・実践モデルを検討する。精神保健福祉制度の批判的分析、地域ケアの国際比較を通じて課題を検討し、地域包括ケアの理念を精神保健分野に応用する力を養う。

（⑥ 前田 由紀／2回）
・医療的ケア児・在宅医療における持続可能なケアシステムのマネジメント
　現状の小児在宅医療が抱える構造的課題を、国内外の文献およびビッグデータを用いて多角的に検証する。その上で、医療・看護・福祉・教育にまたがる多職種連携の実態を批判的に考察し、小児専門職としての役割と責任を明確化する。さらに、持続可能なヘルスケアシステムの構築に向けて、政策立案・組織変革等の観点からシステム思考を深める。これらの学修を通じて、複雑な医療環境においてリーダーシップとマネジメント能力を発揮し、地域全体のケアシステムを主体的に牽引する実践的能力を涵養する。

（⑧ 西田 友子／1回）
・地域特性の把握と社会的課題/地域診断、地域分析
　地域包括ケアシステムを構築するための基盤となる地域特性の把握と社会的課題の抽出について理論と方法を学ぶ。人口動態、疾病 構造、生活環境、社会資源等の多面的指標を用いた地域診断のプロ セスを理解し、エビデンスに基づく地域分析を検討する。また、高齢化、多文化共生、医療アクセス格差など地域課題を可視化し、看 護職が地域のニーズを統合的に評価する視点を養う。

（⑨ 杉村 鮎美／2回）
・がんサバイバー支援における多機関連携とリーダーシップ
　がんサバイバーの地域療養・就労継続および社会的脆弱性に関する課題を、地域包括ケアの視点から俯瞰する。地域特性や制度背景を踏まえ、多職種・多機関連携による支援の在り方を検討し、看護職が関係者間の調整や支援体制の構築を通して発揮するリーダーシップとマネジメント機能について学習する。

（18 小山 真紀／1回）
・災害・緊急時の地域ケア体制とクライシスリーダーシップ

（21 後藤 忠雄／1回）
・地域資源とネットワーク構築/NPO・自治体・地域団体との協働

専門科目	必修	地域包括ケア看護学演習		【概 要】 本科目は特別研究の後半支援科目として位置づけられる。地域包括ケア看護学特講で修得した理論的・実践的知識を基盤に、特別研究で設定した研究課題の遂行過程において、ゼミや学会参加・発表を通し、学際的視野の拡大、自律した研究者としての批判的思考力、研究遂行能力の修得を目指す。 【目 標】 1. 特別研究の進行過程において、文献学習やフィールドワーク等からの文献知と実践知を統合し学会・セミナー等で論理的に発表・ 議論ができる。 2. 特別研究のデータや文献・フィールドワークで得た情報や知見を統合し、分析・改善提案を具体的に提示することができる。 3. 学際的議論やフィードバックを踏まえ、研究課題の修正ができる。 （共同／全15回） ・国内外の文献レビュー （第1・2回文献学習） 地域包括ケアに関する社会課題、関連領域に関する文献収集、整理 ・各自の研究テーマに関連する文献発表 （第3回） ・フィールドワークの設計 実施計画の作成 （第4回） ・フィールドワークの実施 （第5～8回） ・ フィールドワークの中間報告 （第9回） ・文献・フィールドワーク成果の整理 （第10回） 文献・フィールドワークデータの統合・分析 ・学会・セミナー等の参加報告（第11回） 学会・セミナー等で得た知見の共有、課題への応用の検討 ・学会発表予行 （第12回） ・学際的討論会 （第13回） 他領域研究者との議論、視点の拡大・分析視点の深化 ・フィードバック（第14回） 研究課題の整理、改善策の検討 ・演習統括 （第15回） ＊文献検討：特別研究のデータ収集、分析を補完する学際的・理論的情報を収集（地域包括ケアに関連する社会課題に関する文献、医療・介護・教育など関連領域に関する情報）し知見を得、研究課題の深化に資すること。 ＊フィールドワークの目的：特別研究で収集したデータや文献から得られた知見をフィールドで再確認し、看護実践の場との整合性を再評価する。 （3 繩繩 朋弥） ・地域の健康課題解決に向け、エビデンスに基づく支援モデルの構築および社会実装に向けて、学際的視野の拡大、自律した研究者としての批判的思考力、研究遂行能力の修得を目指した研究指導を行う。 （① 中川 ひろみ） ・AYA世代を含む、がんおよび慢性疾患を有する成人患者を対象に、公的支援、アピアランス関連苦痛、就労参加および健康関連Quality of Lifeの関連構造と経時的変化を理論的枠組みに基づき解明する縦断研究を基盤として、量的研究と質的研究を統合した混合研究法による研究指導を行い、学際的視野の拡大、自律した研究者としての批判的思考力、研究遂行能力の修得を目指した研究指導を行う。 （② 三尾 亜喜代） ・喪失、意味づけ、意思決定、再構成、心的外傷後成長（PTG）といった心理社会的概念を対象とし、質的研究方法論に基づき、学際的視野の拡大、自律した研究者としての批判的思考力、研究遂行能力の修得を目指した研究指導を行う。	

				(6 三好 美浩) ・サンプリングおよび統計解析の手法を用いて、学際的な健康課題の量的調査に関して、学際的視野の拡大、自律した研究者としての批判的思考力、研究遂行能力の修得を目指した研究指導を行う。 (③ 井關 敦子) ・助産学領域や性の多様性に関する課題を多様な視点から明らかにし、批判的思 考力と研究遂行能力の習得を目指した研究指導を行う。 (④ 小木曽 加奈子) ・人生100年時代を生き抜く高齢者のQOLを高めることを目指した、地域包括ケアの成熟期に資する、学際的視野の拡大、自律した研究者としての批判的思考力、研究遂行能力の修得を目指した研究指導を行う。 (⑤ 社本 生衣) ・主に実験的手法を用いて看護技術のエビデンスの検証の課題について、学際的視野の拡大、自律した研究者としての批判的思考力、研究遂行能力の修得を目指した研究指導を行う。 (9 大平 幸子) ・精神面での健康問題・困難をもつ人々へのケアに関して、学際的視野の拡大、自律した研究者としての批判的思考力、研究遂行能力の修得を目指した研究指導を行う。 (⑥ 前田 由紀) ・慢性疾患を持った子どもや、重症心身障がい児と家族のQOLを左右する要因を研究課題とし、デルファイ法等を用いたケア評価指標の策定や看護介入の標準化に関して、学際的視野の拡大、自律した研究者としての批判的思考力、研究遂行能力の修得を目指した研究指導を行う。 (⑦ 小林 和成) ・記述及び推測統計をはじめ、機械学習やAI等の多様な解析手法を用いて、人々の健康や社会的課題の根源・要因を探究し、EBNやEBP、EBPNによる諸課題の対策や解決に向けて、学際的視野の拡大、自律した研究者としての批判的思考力、研究遂行能力の修得を目指した研究指導を行う。 (⑧ 西田 友子) ・地域保健および産業保健における健康課題とその関連要因の解明に関して、学際的視野の拡大、自律した研究者としての批判的思考力、研究遂行能力の修得を目指した研究指導を行う。 (⑨ 杉村 鮎美) ・がん看護および緩和ケア領域における看護実践を研究課題とし、量的研究を中心に質的研究手法も用いて、新たな知見を創出し、学際的視野の拡大、自律した研究者としての批判的思考力、研究遂行能力の修得を目指した研究指導を行う。	

		特別研究		【概 要】 専門科目（必修・選択）で修得した知識を基盤とし、学修成果を進化・発展させ、看護学における課題を設定し、自律した研究活動を展開できる能力を修得する。課題解決に資する知見を創出し、博士論文として公表する。 【目 標】 1. 看護学における独創的かつ学術的意義の高い研究課題を設定することができる。 2. 適切な研究方法を選択し倫理的配慮のもと研究計画を立案・展開できる。 3. 収集したデータを的確に分析・解釈し、信頼性・妥当性のある結論を導き出すことができる。 4. 研究成果について、国内外の学会で成果発表を行うことができる。 5. 看護学の発展や看護の質向上に資する知見を創出し、研究を自律的に遂行できる。 （全90回） 第1回～30回：研究基盤の構築と研究計画の立案 自身の課題および周辺領域の文献検討をとおし、研究課題を抽出し、研究目的、意義を明確化する。課題解決のための手法を文献検討やフィールドワーク等により検討し研究計画書を立案する。中間審査を受審し、指導・助言を得て研究計画書を洗練化させ倫理審査を受審し承認を得る。 第31回～60回：研究の遂行とデータ収集・分析 パイロットスタディによりデータ収集、分析方法のブラッシュアップを行い、データ収集を開始する。得られたデータを分析し、結果について検証する。 第61回～90回：成果の発信 研究成果について、国内外の学会で成果発表を行う。	

専門科目	必修			(3 繩繩 朋弥) ・地域の健康課題解決に向け、エビデンスに基づく支援モデルの構築および社会実装を志向した研究指導を行う。 (① 中川 ひろみ) ・AYA世代を含む、がんおよび慢性疾患を有する成人患者を対象に、公的支援、アピアランス関連苦痛、就労参加および健康関連Quality of Lifeの関連構造と経時的変化を理論的枠組みに基づき解明する縦断研究を基盤として、量的研究と質的研究を統合した混合研究法による研究指導を行い、自立した研究遂行能力を涵養するとともに、国際的学術論文の作成および博士論文作成を指導する。 (② 三尾 亜喜代) ・喪失、意味づけ、意思決定、再構成、心的外傷後成長（PTG）といった心理社会的概念を対象とし、質的研究方法論に基づく研究指導を行う。 (6 三好 美浩) ・サンプリングおよび統計解析の手法を用いて、学際的な健康課題の量的調査に関する研究指導を行う。 (③ 井關　敦子) ・性教育および助産学領域に関連する事項や、性的少数者への支援について研究 指導を行う。 (④ 小木曽 加奈子) ・人生100年時代を生き抜く高齢者のQOLを高めることを目指した、地域包括ケアの成熟期に資する研究指導を行う。 (⑤ 社本 生衣) ・主に実験的手法を用いて看護技術のエビデンスの検証の課題について研究指導を行う。 (9 大平 幸子) ・精神面での健康問題・困難をもつ人々へのケアに関する研究指導を行う。 (⑥ 前田 由紀) ・慢性疾患を持った子どもや、重症心身障がい児と家族のQOLを左右する要因を研究課題とし、デルファイ法等を用いたケア評価指標の策定や看護介入の標準化に関する研究指導を行う。 (⑦ 小林 和成) ・記述及び推測統計をはじめ、機械学習やAI等の多様な解析手法を用いて、人々の健康や社会的課題の根源・要因を探究し、EBNやEBP、EBPNによる諸課題の対策や解決にかかる研究指導を行う。 (⑧ 西田 友子) ・地域保健および産業保健における健康課題とその関連要因の解明に関する研究指導を行う。 (⑨ 杉村 鮎美) ・がん看護および緩和ケア領域における看護実践を研究課題とし、量的研究を中心に質的研究手法も用いて、新たな知見の創出を目指す博士論文指導を行う。	

専門科目	選択	看護政策特講		【概 要】 看護を取り巻く保健・医療・福祉に関する政策の諸課題を政策的視点から分析・考察し看護の役割について多角的に検討する。政策形成の理論的枠組み（政策過程論、エビデンスに基づく政策形成など）を理解し、国内外の看護政策の動向、課題について、研究、教育、医療、保健及び福祉機関等で活躍する専門職の立場から、看護政策の知識と応用力（実践・提言・教育に活かせる）を涵養する。さらに、組織運営や政策企画の立案において重要な役割を果たせるリーダーシップ・マネジメントの能力の修得を目指す。 【目 標】 1. 保健・医療・看護に関する政策を理論的に理解・分析できる。 2. 看護政策の歴史的・国際的展開を比較的視点で説明できる。 3. 看護職による政策提言・参画の意義と方法を説明し、実践に活用できる。 4. 研究成果を政策提案へとつなげる視点を獲得できる。 （オムニバス方式／全8回） （② 三尾 亜喜代／2回） ・看護政策と倫理 ジェンダー分析の理論基盤、ジェンダー視点での政策分析、看護政策におけるジェンダー課題を提示し、ジェンダー視点を取り入れた政策提言の作成を行う。 ・看護教育と政策：教育課程と制度改革、政策リテラシー教育 保健・医療・福祉政策の変化を捉え、看護教育カリキュラムの改革案を作成するとともに、政策形成に参画して判断・提言できる能力の向上を目指す。 （⑧ 西田 友子／3回） ・政策評価と影響分析 看護政策がもたらす成果や影響を科学的かつ体系的に検証するための理論と方法を学ぶ。政策評価の理論枠組み、指標設定、データ収集・解析の基本を理解し、質的・量的手法を用いた影響分析の実践能力を養う。また、国内外の評価事例を取り上げ、政策改善につながる示唆を導くプロセスを考察する。これらを通して、研究者・実践者・教育者として根拠に基づく政策評価を行う能力の向上を目指す。 ・演習 各自の専門領域（教育・実践等）に即した政策課題へのアプローチ 実際の政策事例の分析、模擬事例政策提案の作成など各自の専門分野についてまとめる。 ・プレゼンテーション 上記でまとめた内容について発表およびプレゼンテーションを実施する。 （19 川瀬 真弓／1回） ・政策提言の方法論 エビデンスに基づく政策立案プロセス （⑩ 朝倉 京子／1回） ・看護政策の基礎/日本における看護政策と制度の変遷 医療政策・看護政策の概念・意義、政策形成、歴史・返還について日本国内および国際的側面から理解を深める。 （⑫ 稲岡 希実子／1回） ・国際看護政策比較(WHO、OECDなど) 国際機関が提示する保健医療政策の枠組みや指標を踏まえ、各国の制度及び看護政策の比較を行う。	オムニバス方式
		データサイエンス特講		【概 要】 医療・保健分野では電子カルテ情報やレセプト情報をはじめとして検診データ、ICT、IOT、AIなどの活用により多くの情報が収集・蓄積されている。これら蓄積されているリアルワールドデータを収集し、ビックデータとして分析・可視化することで、健康課題の解決するための基礎資料となるようデータ収集方法や、分析方法を探求する。 【目 標】 1. データサイエンスの背景や基本的な知識を説明できる。 2. リアルワールドデータを研究に利用する際の留意点を説明できる。 3. 収集されるリアルワールドデータを活用し分析、可視化することができる。 4. 収集されたビックデータを活用し価値創造する方法を探求できる。 （オムニバス方式／全8回）	オムニバス方式

専門科目	選択			（⑦ 小林 和成／1回） ・データの看護への活用 収集されたビックデータを活用し価値創造する方法を探求できる方法を探求する。ビッグデータの看護分野への活用は、医療全体のデータ活用と密接に関係しており、教育や患者ケアの質向上や業務効率化、予防医療の推進などの活用例とともに今後の活用例を探る。 （15 松丸　直樹 ／2回） ・ベイズ理論 ・レギュラトリーサイエンス （17 一宮　尚志 ／5回） ・データサイエンスの背景 ・機械学習の基礎 位相的データ解析（TDA）を応用した機械学習（Machine learning）と融合させた生体データの新しい解析手法の基礎について学ぶ。 ・リアルワールドデータ・ビックデータ取り扱い時の倫理・活用のリテラシー ・医療データ（電子カルテ情報、健診データ、がんデータ）の収集 ・分析方法 ・リアルワールドデータ・ビックデータの解析方法・可視化と利活用	
専門科目	選択	ヘルステック特講		【概 要】 ヘルステクノロジー（AI、ビッグデータ、IoT、ロボティックス、ウェアラブルデバイスなど）の現状と展望を理解し、看護学の視点からその利活用と課題について批判的に検討する力を養い、ヘルスケアや看護への応用について探求する。 【目 標】 1. ヘルステックに関する最新の知識と技術の動向を理解する。 2. 看護の視点からテクノロジーの活用の可能性と課題を評価できる。 3. ヘルスケアや看護への実際の事例を分析し研究、実装可能性を構想できる。 4. 倫理的課題に対する批判的思考を持ち、課題解決策を考案（提示）できる。 （オムニバス方式／全8回） （3 纐纈 朋弥／1回） ・IoT、ICT、ウェアラブルデバイス　　見守り、自立支援、在宅ケアにおけるICT活用や地域ネットワーク構築 IoT,IcT,ウェアラブルデバイスなど最新のヘルステクノロジーが高齢者の生活の見守りや在宅ケア支援にどのように活用さされているか、利点・限界・倫理的課題を看護学の視点から批判的かつ実践的に検討する。講義、事例検討を通し、ヘルスケアサービスへの実装可能性を探求する。 （⑥ 前田 由紀／1回） ・教育への活用　VRやシミュレーション教育による実践力強化 AIやXR(VR,AR,MR)を活用した看護教育への利点・課題や懸念点を熟考しヘルステクノロジーとの協働を模索する。 （⑦ 小林 和成／3回） ・ヘルステックと看護 ヘルステックの概念や歴史的変遷、保健医療福祉の中でも、特に昨今のヘルスケアや看護における実践的・研究的な取り組み、及び課題を概観し、今後の社会に求められる内容や方法、法制度や倫理のあり方等について探求する。 ・ビッグデータの利活用 ビッグデータの概念や歴史的変遷、保健医療福祉の中でも、特に昨今のヘルスケアや看護における実践的・研究的な取り組み、及び課題を概観し、今後の社会に求められる内容や方法、法制度や倫理のあり方等について探求する。 ・国内外の最新のヘルステック活用例 国内外の最新のヘルステック活用例について、社会実装に至るまで経緯、実装後のメリット・デメリット、更なる改良・発展の可能性につい探求する。 （14 細野 光章／1回） ・テクノロジー導入における倫理的課題	オムニバス方式

				(20 大野 ゆう子／2回) ・AI　　予測モデリング ・ロボティックスと看護 　ケア支援ロボット、移乗支援	